明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回
明治二十一年二月二十八日內務省許可（廿日發行）

大正二年三月二十日發行

婦人衛生雜誌

第二百八十號

婦人衛生雜誌

第二百八十號目次

稟告

○來る四月五日本會例會開催すべき處、會場、講師其他の都合に由り來月に限り特に休會致す事に相成候間此段會員諸姉の御了承あらむことを乞ふ

○春季懇親會は諒闇中に付き御遠慮申上げ秋季に於て盛大に擧行可致筈に候得ば是亦御了承あらむことを乞ふ

○本會役員は先月總會に於ける選擧の結果總て從前の通り決定相成候間左樣御承知被下度候

大正二年三月

私立大日本婦人衞生會

前髪心の覇王 美人印ヘーヤロール

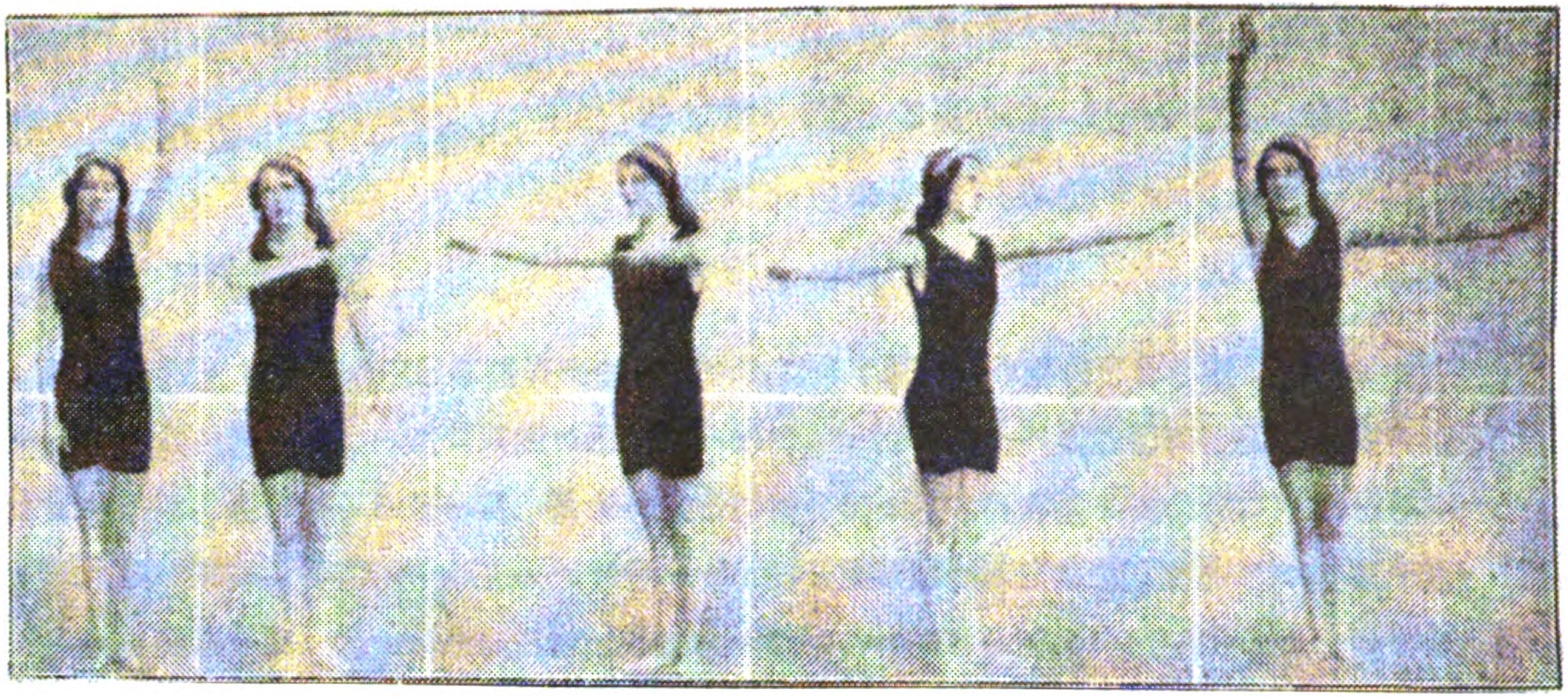
弊店製造の特許ヘーヤロールは原料を遠く濠洲に仰ぎ新歸朝者美容術界の明星たる岡崎エン子女史が母國への土産として持ち來りしものに大改良を加へ衛生と經濟とを兼備したる逸品なる事貴婦人界既に定評あり

ヘーヤロール前髪心壹個の目方

壹尺	中	貳匁四分
壹尺貳寸	大	三匁四分
壹尺五寸	極大	五匁五分



韻律體操四分五調の型
（手の運動）



韻律體操擬容的表情の型
（手の運動）



口繪の說明

獨逸國ドレスデン附近の園藝市ヘルレルアウに近頃 Bildungsanstalt（養成所）と銘を打つた立派な學校が出來た。創立者はドクトルダルクローツェ氏で、最新式の韻律體操を敎へて居る。その目的とする所は、音樂的の人間を養成し、心身各部の調和發達を期するにある。而してその理想とする所は、單に姿恰好を美しくするだけでなく、內部より根本的に典雅の個性を發揮せしめて、自らその動作に意味あり、威嚴あり、生理的にも、智的にも、はた道德的にも圓滿なる美人たらしめやうと云ふのである。その手段として、音樂に伴ふ所の身體動作は、最も眞面目に其人の精神を發表するものであると云ふ所より、專ら合理的に音樂を應用して、所謂韻律體操法を構成したのである。上圖は卽ちその型の一部である。併し純粹の韻律體操が漸次表情、踊に移つて來ては、聊か本來の意味の敎育的の境界線を脫しかけて居るやうに思はれる。上圖と下圖とを比較して見れば頗る明らかである。下圖は著しく技巧的表情的の演技になつて來て居る。故にダルクローツェ氏の持論は兎角の評を免れないが、今や非常の勢で流行して居る。



日本の産婦と西洋の産婦

醫學博士　磐瀬雄一

先達て濱尾男爵夫人及び三宅博士夫人からして何か本會に出てお話をするやうにと云ふことでございましたから、今日はお産の事に就て殊に西洋の婦人のお産と日本の婦人のお産と少し異つた處もありまするからして、さう云ふやうなことに就てお話したいと思ひます、それに就きまして唯今幹事の方からお話があつた通り、皆さんの中の大多數の方はお産と云ふ事の何んなものかと云ふことをお承知ない方が多いのでございませうから、極く簡單にお産と云ふ事に就て先づお話を致してそれから續いて日本人と西洋人とのお産が多少違ふと云ふことをお話致したいと思ひます。

お産或は分娩と云ふことゝ、之を極く簡略にお話致しますとお腹の中に在る子供が阿母さんの體から外に出ると云ふ、其出るまでの間のことをお産と申します、是からお産の事をお話致しますに就ては（模型を示されつゝ講演す）是は革で拵えた物でありますが、此處が此子供が出る道でありまして、是が産道と申す所であります。子供が産道を通つてさうして阿母さんの體から外に出て來るので、此産道と申しまするのは醫者の言葉でお解りにならぬかも知れませぬが、兎に角産道とは何う云ふことを云ふのかと言ふと、此赤兒さんが出て來る道で其道に二種類あります。

其一つの方は軟部産道、一つの方は骨部産道、（骨盤）斯う云ふ風に軟かいお産の道と、硬い骨のお産の道

との二つがございまして、軟かい方のお產の道とは何う云ふことかと云ふに重に子宮の頸部と云ふ子宮の出口の方と、膣と其二つで、硬い骨の部分のお產の道は卽ち今日持つて參りましたところの斯う云ふ骨の骨盤で此の中を此子供が通つて來る譯であります。

斯う云ふやうにお產の道を普通何うして、子供が何故出て來るか、子供一人で這出して來る譯でも何んでもないのですからして、何うして子供が出て來るかと申しまするど所謂蟲がかぶる—お腹が痛くなる、段々お腹が痛くなつて來るからである、それでは何故お腹が痛くなるかと申しまするど、是は子供がお腹の中に入つて居りますのは子宮と云ふ嚢の中に入つて居るのでありまして、又其子宮と申しますのは、護謨の嚢のやうな物で、其護謨の嚢のやうな物が子供を出す爲に子宮が收縮して、中の子供を嚢から外へ押出す、此子宮の收縮を婦人の方が痛さとして感じます。之を陣痛——蟲がかぶると云ひます。

此痛が幾度も〱反復されて、さうして段々と子供が今お話致しました產道を通つて次第に出て來る、それが先づ極く簡單に申すお產と云ふ事であります。次にお產の經過に就て單簡に申上げます。之れは今お話して置きませぬと是から後でお話致します時に都合が惡ふございますから、お產の經過を次の三つの時期に區別致します卽ち

第一期　開口期
第二期　娩出期
第三期　後產期

それが何う云ふ風にして分けるかと申しまするど、第一期と申しますのは、先程お話致しました、子宮は嚢でありますから其嚢の口は初め縮つて居りますけれども、陣痛が始まりますとそれが段々と開いて參りまして十分赤兒さんが出る事の出來るだけ子宮の口が十分に開く其時期が卽ち第一期と云ふので、或は其事を開口期と申します、それが濟みますと云ふと第二の娩出期と云ふので之れは何う云ふ時期か

と申しますると、今すつかり子宮の口が開いて參りまして、赤兒さんが出て來ればそれで宜いので、本統のお產と云ふのは畢竟それでございまして、子宮の口がすつかり開くと、それと前後して水が出ます、それから内の赤兒さんがお產の道を通つて體の外に出て來る、それまでの間を第二の娩出期と申しまして一番大切な時期であります、最後の第三期と申しますると、赤さんが出て仕舞つた後で後產と云ふ(模型を示さる)此處にあります胎盤、臍帶、卵膜(胞衣)と斯う云ふ風な物が其後から產れて來る、それが後產——後のお產であります、先づさう云ふ風にお產の經過を三つの時期に區別するので、是だけお產と云ふ事に就てお話して置きますると、是から今日お話致しませうと思ふ所が大變樂に解りますから、簡單にそれだけお話して置いた次第であります。

一體此お產でございますが、お產の難易、難かしいお產とか易いお產とか、さう云ふことに就て極く一般に申しますると、矢張り野蠻人の方が此文明の度が進んで居る人に較べると容易いと云ふことは、それは何うしても爭はれない事實でございます、で此日本人、それからして西洋人、さう云ふ風な開化の度が進んで居る所では、お產をするのに一人でお產をすると云ふやうなことは先づ無い、大抵お產の時には誰か產婆が來るとか、或は產婆でなくとも、年を取つたお產に經驗の有る人が來て、それを手傳つてやる、先づさう云ふことが普通の例である。それに反して極く野蠻の人種になると、お產の時に誰も立會つて吳れずに自分一人でお產をすつかり濟ませる、さう云ふやうなのが隨分澤山ございます、詰りお腹が痛くなつて所謂蟲がかぶつて來る、直ぐと其婦人が川の邊に行つて子供を產んで仕舞ふ、子供を產んで仕舞つても(模型を示さる)此處で御覽になる通り胎兒は臍帶で胎盤に連がつて居ります、此大事な物を何うしても切らなければ赤兒さんだけ別にすることが出來ませぬから、其臍帶などを何うして野蠻な人が斷るかと申しまするど、是はいろ／＼あります

が一番野蠻なのは自分で臍帶を嚙切つて仕舞ふ、恰度犬や猫のお產をすのは、自分で胞衣とか臍帶とか斯んな物まで自分で食べて仕舞ふ、ずん／＼食べて仕舞つてさうして宜い加減な所まで食べて仕舞ふ、恰度それに似たやうな工合で自分の口で食切つて仕舞ふ、それが一番手早いので其外川の邊の石の上に臍帶を上せまして石でカチ／＼やりましてさうして斷つて仕舞ふ、それから又海邊の貝殼であるとか骨のやうな物でギザ／＼やつて切つて仕舞ふ、さう云ふのもあります、それから又竹の箆のやうな物で是は方々で隨分使つて居りますが、さう云ふ物で切つて仕舞ふのであります、それから又石で拵えた小刀のやうな物で切るのもあります、獸の齒で切る處もあります、獸の骨であるとかカンガロー袋鼠なぞの骨ペリカンと云ふ嘴の大きな鵞鳥のやうな鳥の骨で切るのもあります、或は燒斷つて仕舞ふのであます、兎に角此子供と胞衣とを別に致しまして其子供を自分が川でチャンと洗つて自分の體も淨めてさうして子供を抱いて家に歸る、是が一番簡單なお產で、南洋の土人などの中には澤山さう云ふのがある、先づ大抵外でお產をすると云ふやうな處では大抵森の中で、其處の側に小川でも流れて居るとか海邊であるとか、海の中に入つてさうしてお產をするのもある、無論海の中と言つても淺い處に入つて子供を產む、水がありますと、直ぐ子供を洗ひ自分の身體も淸めることが出來ます。さう云ふ風にして行る處もありますし、それから又森の中の枯草を集めて枯草を褥として其處でお產をすると云ふやうなのもある、隨分そんな風に所謂野蠻人の中には水草を追うて移轉すると云ふやうな、いろ／＼な人種があります、一定の家がなくさう云ふ時分に移轉して居る間にお產が始まつて來ることがある、さうなつて來ると何處でも構ひませぬ、沙漠のやうな處でお產をして、自分で直ぐとそれを始末して後から追驅けて行く、そんな風な工合でお產をしても後何共なく動く、それからもつと甚しいのになると戶外で雪の中でお產を

する、さう云ふ風な處もあります、さう云ふやうな家の外で、骨も折らず、お産を手傳ふと云ふ人もなくてお産をする處は、決して野蠻の人種のみに限つて居りませぬ、今新聞紙などで能く御覧になりませうけれども、土耳其と戰をして居る勃牙利、蒙的尼羅、巴爾幹半島などの國あんな風な處でも皆と申す處でもございませぬが、中には此お産が始つて來るとさうすると森の中に入つてお産をして、自分が其子供をすつかり取上げて、子供を包んでさうして自分の家に歸つて來る、隨分さう云ふやうに歐羅巴の國でも、外でお産をするのがあります、一體お産と云ふことは犬とか猫などでもお産を人に見られるのが忌やですから、皆分らない所でお産をして子供を産む、所が非常な野蠻の人種になると、其お産を恥かしいともなんとも思はない、皆が見るのは一寸でも恥と思はない、他人の前でお産をすると云ふやうな、極く野蠻なのもあります、併し如何に恥とはしないでも、男の人には見せない、女の人だけで、兎に角大勢で、親類の人なぞも其周圍で見て居つて産婦に勢を付ける爲に太鼓を敲いたり鐘を叩いたりしてさうして、歌を謡つてお産をする者に勢を付けてやる、さうして子供が生れると非常な御祝があつて、其處で皆お酒を飲んで御祝をする、さう云ふやうな處もあります。

それから又此家の中でお産をするのが通常でありますが、實際家の中と申しましても、場合に依つては却て森の中でお産をした方が中には清潔な場合も澤山ある、隨分汚ない家になりますと却て家の中でお産をした方が穢ない位な所もあります、隨分日本などでも、大學で往診をしてやるやうな貧民窟になりますと、先づ小さな裏店で九尺二間の中に二軒も三軒もの家族が住つて居つて、お産をする處は丁度二疊敷位しかない、隣の部屋なども殆ど破れ障子で仕切つてあると云ふそんな狭い所でお産をするよりは、寒いとか何とか云ふことを抜きにすれば、矢張り清潔な森の中でお産をした方が餘程優しな位であ

る、それから此特別にお產をする爲に小屋を拵えてお產になり態々其處に行つてお產をすると云ふやうな處もございます。露西亞の或處では風呂場でお產をさせるさうであります。兎に角今までお話したお產と云ふものにもいろ／＼階級がございます、簡單に濟むのがあり、なか／＼困難なのもあると云ふ工合に、種々階級がある、一般から言うと野蠻の人ほど詰りお產が輕いと云ふのが事實であります。

ところで日本の婦人のお產と、西洋の婦人のお產とは何う云ふやうに異つた所があるかと申しますると、先づお產の時間、お產が始つて終ふまでの時間、此時間に付て申しますと、全體の時間を較べて見ると、初產の者では西洋人の方が三十分程長く、それから經產婦、幾度もお產をした者、さう云ふ人に於ては一時間四十六分、先づ約二時間程西洋人の方が長うございます、卽ち西洋婦人の方が初ての人は三十分程長く、二度目からは約二時間長うございます、此二時間或は三十分を先づ平均しまして、一時間半長いと云ふてよろしい、其長いのは先程お話致しましたところに據ると、一般に野蠻人の方が御產が輕いから、日本人の方が西洋人より野蠻だからそんな風になるかと云ふ考が起るかも知れませぬが、それは決してさうではない、それでは何故に一時間半も違ふかと申しますと云ふと、今御產の三つの時期を別々に比べて見ると何うなるかと申しますると、分娩の第一期に於ては初產婦で一時間半程、西洋人の方が長く經產婦では二時間十六分、先づ二時間位長く、外の第二期三期を比べると西洋人も日本人も一寸も違はない、先程お話した通りお產の一番苦しい、本統の子供が出る時は何うかと云ふと、第二期と云ふ時が子供が出て來る一番苦しい時、其時を比べては西洋も日本も一寸も違はない、唯長いのは第一期が長い、それが長いからして合せた全體の數にしますると、西洋人の方が平均して一時間半位長くなる、それでは何故斯んな風に第一期卽ちお腹が痛くなり初てから子宮の口がすつかり開くまでの時期が西洋

人の方が長く、日本の方が短いかと云ふことをお話しなければなりませぬが、一口に申しますると、西洋の婦人と日本の婦人との身の嗜みが違ひます、で此日本の婦人に致しますと、此我慢する辛抱すると云ふ事が御產に付ては、昔から御產は婦人が爲すべき義務である、女と生れては何うしてもしなければならぬ、其お產をする時は多少痛からうが、苦しからうが飽まで我慢しなければならぬ、殊にお武士の家などではさう云ふやうなことを非常に八ケましく言ふ、お產の時に痛いとか泣くとか云ふやうなことは先づ女の非常な恥である、それは何うしても必ずしなければならぬものだから我慢しなければいかぬ、それも辛抱が出來ぬやうでは女ではない、と其位八ケましく仕付られてある、故に今日でも中以上の階級の人では皆痛いなどゝ言ふことは決して言ひませぬ、多少は言ひますけれども甚しくは言ひませぬ、私共の大學などで澤山お產がございますが、去年も今年も千以上で、今年も今日までゝ、千五十位ありました、そんなに澤山お產がございますけれども、大學に來ましてお產をさして貰ふと云ふやうな婦人の大部分は中以下に屬するやうな人でございますから一體から申せばさう云ふ下層な人は痛がつたり泣いたりしさうなものであるが、非常に痛いとか何とか言つて八ケましく言ふ者も、偶には一人二人ありますけれども滅多にありませぬ、身の嗜みとして辛抱しなければならぬと云ふやうなことがちやんと下層の者まで皆心得て居る、それに反して西洋の婦人を見ますと云ふと、喜怒哀樂を少しも辛抱するやうな仕付は先づ全く少いだらうと思ひます、嬉しい事があれば直ぐ喜ぶ、悲しい事があれば直ぐ悲しいやうにします、何でも自分の心の中で思つた喜怒哀樂を直ぐと顔に表はす、さう云ふ風な傾向が一般にあるので、それだから戰爭の時に日本でも日清戰爭、日露戰爭の時に、戰爭に出るやうな時でも、其婦人は送つて行つたりした時でも、心の中では別れると云ふことは悲しいのである、併し面には却々表はさ

ないさう云ふ風に介抱する所が西洋では外に戰の場合などには……伯林の公園に普佛戰爭の戰捷紀念塔が出來て居ります、其下の臺の處に出陣のところと、戰爭の闘と其後の方には赤十字の介抱して居るところと、最後には凱旋して歸つて來た彫刻が立派にしてあります、所が軍に出て行くところの闘を見ますると女の人が泣いて訣別をして居る、又凱旋して歸つて來たところの繪に致しまするとが泣いて喜んで居る、是に因て見ましても西洋の婦人は喜怒哀樂を自分で耐えるとか我慢すると云ふやうなことは非常に少いやうに思はれる、それで西洋人がお產の時の態度を申しますると、是は又日本と全く反對でございます、西洋では大學の病院に入つてお產をする人が澤山ある、さう云ふやうなお產の部屋と申しますると、處に由つて違ひますけれども、少くとも此講堂位の部屋であります、其部屋にお產をする牀が此方に四ッ位彼方に四ッ位詰り八ッ位ある、其處にはお產をする者が勿論其處の患者でありますが、さう云ふ風な者を入れてやつて其處でお產をさせる、ところがお產になると先程申した卽ち陣痛、蟲がぶつて來る、さうしますと構はず大きな聲を出して泣きます、中には泣かないのもありますが、大抵の者は泣きます、それでございますからして獨逸語で產婦と云ふことを泣叫ぶと云ふ動詞を名詞にしてクラインセンデー卽ち泣叫ぶ又は泣きつゝある者と云ふ意味で、其字を直ぐと產婦と云ふ字にして居ります。是は日本で言ふても一寸も解りませぬ、又今假に一步を讓り產婦が泣くのは腹が痛くて泣くのだから當然としても、家の人例ば姉さんとか又は妹とかが傍に居る場合に、陣痛が來ると產婦と一緒に聲を出して泣きます、それは何うも譯が解りませぬ、お產をして居る人ならば少も差支はありませぬが、側に居る者が一緒に泣く必要はありませぬ、それであるのに側の人が矢張り泣く、さうして蟲がかぶると泣く、それは始終續いて泣く譯ではない、時々五分とか十五分とか時を置いて痛くなると泣くのですから、間

の十分とか二十分とか痛まない時は何うかと云ふこ側の家から來て居る人と笑つて話して居つてお腹が痛くなると泣き出す、『能く子供なぞが今泣いた烏がもう笑つた』と云ふやうな風に泣く、赤兒を産むやうな人が今まで笑つて居つた癖に直ぐ泣くと云ふやうなことは解せない、何故そんな風にお腹が痛くなると泣くかと云ふと、西洋では寧ろ泣くことを奬勵する、何故泣くことを奬勵するかと聞いて見まする と、それには一理窟ないでもない、お腹が痛い時に泣いて居れば其間だけは其泣くので痛みを忘れて居る、それだから泣くのでお產と云ふものはお腹が痛いに定つて居るから、泣いて痛を忘れると云ふ、さう云ふやうな工合に寧ろ泣くことを奬勵して居る、それだからして今までお話した日本の產婦にそれを比較して御覽になつたら非常に違ふ、片方は辛抱せよ、泣くのは恥だから辛抱せよと言つて痛いのも我慢しろと云ふし、又片方では痛ければ構はぬから泣け、泣く間は痛を忘れるて居ると云ふ風に全然違ふのでありますそれでございますから、西洋の中以上の人でお產をする人は大抵の人は麻醉藥を使ひます、藥を醫者に懸けて貰ふ麻藥を懸ければお腹の痛を一時忘れて居りますから其爲にいろ〳〵な麻醉藥を使ひます、いろ〳〵な藥をお產に使ひまして、少しでもお腹が痛くなつて來ると麻藥を懸ける故に西洋人が能くお產の時に日本では何う云ふやうな藥を使うかと聞きます、西洋の人はお產に麻藥を使ふものと思うて居るから、麻藥を使ふ使はないと云ふことよりも、先づ日本では何んな麻藥を使ふかと初からさう云ふ問ひをかける位であります。

併し御承知の通り日本では麻藥なぞは手術をするやうな時は使ひますが、その外にお產と云つて麻藥なぞは決して使はない、それ故に今御話したやうに、お產の時の第一期が大變に西洋人の方が長いと云ふのは詰りそれです、日本では少し位お腹が痛くなつてもお產と云ふものは、痛いものだと云ふ頭を有つて居りますから、早く言出すと恥になる、その位に

思つて居りますから、少し位お腹が痛くなつて來ても我慢して居る、ところが西洋の人は少しでもお腹が痛くなつて來れば直ぐに騒出す、片方は騒ぐ、片方は默つて居る、其時間の差が大分ある、即ち第一期はお腹が痛くなり初めてから子宮が開くまで、お腹が本統に痛くなるまで我慢するのとは、其間の時間の差が澤山出來ます、それが此第一期が長い譯で、全體お産の經過にすると云ふと西洋人の方が長いと云ふのは詰り之に因るのである、日本の婦人が御産の時に辛棒すると云ふ事は婦人の身の嗜みとして非常に美風と思ひます、無暗に泣いたり何かせずに忍耐をすると云ふは大變宜いことで、日本が段々文明になつて西洋にかぶれるとしても斯う云ふ産の痛を忍ぶと云ふ樣な美風は益々奬勵して、お産は痛むのが當然だからして我慢をしなければならぬと云ふ工合にして戴きたいと思ふ、西洋の眞似をして痛ければ泣くと云ふ工合になさらずに、益々今日までの通りにお産と云ふものは痛いものだからそれを忍耐しなければいかぬとさう云ふ如き美點は益々發達さして行きたいと思ふのです、それが詰り分娩の日本人と西洋人との長い短いと云ふ事に就てのお話でございます、

次にお話致しますのは西洋と日本と比べまして、西洋の方が産が重い、所謂難産が多いと云ふ事に就てお話したいと思ひます、併し此難産と云ふことにはいろ／＼な意味がありますから、一寸お斷りして置きたいのは譬へばお産する殊に非常に出血が多いとか、さう云ふ風なことが起つて來る、それは西洋だつて日本だつて一寸も違ひませぬ、そんな風の關係は少しもありませぬ、唯今此處で重いお産と言つてお話をしやうと云ふのはさう云ふ風の意味のお産でなくして、子供が出るまで大變に手間が經ると云ふやうなお話をしたいと思ふ、何故此意味に於ける難産が西洋に多くて日本には割合に少いかと申しますと是にはいろ／＼な事がございますが、先づ此原因の内の重なるもの二つ程例を引いてお話すると先づ

第一に西洋には骨盤の狹い人卽ち狹窄骨盤が大變に多いのでございます、今それを較べて見ると西洋では全體の百の中二十から二十四、所に由つて多少違ひますけれどもお産を百人する中に二十四人は骨盤の狹い人であります、日本の人では何うかと申しますると、是は私が一寸大學でお産をした人に就て調べたのに據りますと、約五千人の産婦の中に大略先づ五十、百の中五人で此五人と申しますと是はまだ少し多過ぎます、是より少目に勘定して差支ないのである、併先づ大體調べたのは是より少いと思つて下さい、百人に三人か四人それ位に見て居る、之を西洋の骨盤の狹い人と比べると四倍乃至五倍西洋の方が骨盤の狹い人が多い、之をもう少し增せば七八倍位西洋の方が骨盤の狹い人が多い、それだから子供が出るのに大變に出惡い、日本では骨盤の非常に狹い人は見世物に出る一寸法師でなければ無いと云ふ程です、ア、云ふ者であれば赤兒さんが自然と骨盤の中を通つて生れない、斯云ふ風な場合には、何うしてもお腹を切つて中の子供を出さなければなりませぬ。それで何故西洋に骨盤の狹い人が多くあつて日本には何故少いかと申しますと、是は一口に申すと西洋には子供の時に骨の病氣が大變多い、戸外を步いて居るのを見ると其步き工合で能く分る、脚を〈〉斯う云ふ風に曲げて步いて居る子供がある、それからして〉〈斯うなつて步いて居る子供が澤山ある、それは勿論日本の子供は下まで長い着物を著て居りますが、西洋の子供はズボンみたやうな女の子でも脚を出して居るからでもありませうが、斯う云ふ風なのが往來を隨分步いて居るのを見受けます、是は〈〉O字脚X字脚と云ふ字の名が付いて居る、それを又西洋の人は自慢にして居る所がある、卽ち野蠻の國ならば斯んな風の步方をする者はとをの昔しに死んでしまふのだが、醫術が發達して居るから死なずに生きて居るのだと云つて自慢して居る、さう云ふ風に兎に角子供に骨の病氣が澤山あるのである、其骨の病氣と云ふのは何うかと云ふと丁度子供

が歩き初める時分に起る病で、さう云ふ風な軟い骨の子供が歩くやうになると、是は考へて御覽になつても分りますが軟い骨盤の骨が上からは身體の重で壓され、下からは足の骨で壓され、即ち上からも下からも壓されて居る、其外骨盤には筋肉が澤山附いて居りますから立つと云ふことに付ては此等の筋が引張つて立つのです、軟い骨が上からも壓し下からも壓される、それから筋肉が引張られる、是が若し堅ければ斯んな筈はございませぬが、さう云ふ風な關係で骨が軟いものですから骨盤がいろ／＼な形に變化します、兎に角骨盤の形が變つて發育が大變惡くなる、一度骨の病氣に罹りました子供は其時に骨盤の形はすつかり變つて仕舞ひます、ところが病氣が癒るやうになつても一旦受けた骨盤の形は直りませぬ、其時分には骨が堅くなる、もうさうなつたら一生變化した形の儘で居ります、それであるからもしさう云ふ風な病氣を病つた人は何時まで經つても骨盤の形が變つて居るとか、又は骨盤が小さく狹窄になりますから、赤兒さんが生れるのに手間が取れる、それでは何故西洋にさう云ふ風な骨の病氣が多く有つて日本には少いかと言へばそれに就ては確乎したことは能く解りませぬが、氣候の關係とか風土の關係とか生活狀態が異うとか、家屋の構造即ち空氣、光線、日光とか食物とかいろ／＼な關係あつて、西洋には割合に多くて、日本には割合に少いと云ふ結果になるのでありませふ、ところが極く近頃即ち今から二三年前に此ヘーガールと云ふ婦人科の方で有名な人でありますが、此人は獨逸などで恐らく骨盤狹窄の多いのは、是は詰り子供に阿母さんが自分の乳を飲ませないからそれだからそんな風になる、何故子供に阿母さんが乳を飲ませないとそんな風になるかと云ふと、子供には何が一番滋養になるかと申しますと、阿母さんの乳より良い物はありませぬ、ところが西洋では餘り阿母さんが子供にお乳をやらないと云ふ風に昔からなつて居つたものですから、段々とさう云ふ風に子供に乳をやらない者が

大變多くなつて、牛乳のやうな物をやる、牛乳のみをやれば其子供が榮養が惡くなる、榮養が惡くなれば矢張りいろ〳〵今お話したやうな骨の病氣に子供が罹り易い、それだから獨逸には狹窄骨盤が多い、夫れに就き日本の事を例に引き日本では阿母さんが子供に乳をやることは殆ど義務のやうになつて、必ず阿母さんが子供に乳を遣る、夫れだから日本には骨の病氣に罹る子供が極く少い、從つて狹窄骨盤も少いのだと云つて居ります。實際に子供に乳を遣ると云ふことはいろ〳〵詳しい話が澤山あるのですけれども、それは今日の題に關係がございませぬから申上げませぬが、兎に角此西洋では乳兒の死亡が大變多い、それだものですから非常に苦心して居つて、殊に佛蘭西などは人口を殖やさうとして大變苦心して、凡て醫者ばかりでなくいろ〳〵な學者が集つて相談をして居りますが、其内で醫者の方では乳兒の死亡が多いのが一つの原因だとして居ります。而して此乳兒の死亡の原因は阿母さんの乳を子供に遣らないからだと云ふやうなことで、乳を遣ることを奬勵して居る、阿母さんが子供に乳を遣ることは大變に宜い、現に三井の慈善病院などに來るやうな子供は西洋の子供と榮養の狀態を較べて見ると大變に良い、それは其筈です、日本の方は母乳を飲んで居るから體格も良い、固より貧乏人ですから牛乳の代なぞも出すことは出來ないから、自分の乳で育てる、それだから小さい子供は皆阿母さんの乳を飲んで育つて居る、それだから大變に子供の體格が良い、それから後になると多少違ひますが兎に角小さい阿母さんの乳を與へて居る間の子供は大變宜いさうです少し話が横道になりましたけれども、母乳を飲ませることは狹窄骨盤が少くなると云ふ事に關係があると云ふ事、先づそんな關係で西洋には狹窄骨盤が多いためにお產が重いと云ふので、それからもう一つの難產の原因は雜婚と云ふ事で、此雜婚と云ふことを今簡單にお話すると詰り人種の異つた人、さう云ふやうな人が結婚をすることを雜婚と申すのであり

ます、で歐羅巴では國が續いて居りますからして、昔から外の國の人の處にお嫁に行くことを何んとも思つて居ない、日本のやうに島國で一國になつて居りますと、同じ人種の支那人の處に行くとか、朝鮮人の處に行くなぞと云ふてさへ皆嫌やがつて居るが、西洋では昔から交通があつて、獨逸の者が佛蘭西に行き、佛蘭西の者が英吉利に行くと云ふ風で、何方も何とも思はない、そんな風な工合に國が違つた人が互に結婚をする、此雜婚と云ふことが矢張りお產の重いのが澤山あると云ふ原であります、何故かと申しますとそれに就て少しお話致しますと、一體各人種には各々固有の骨格を有して居る、從つて各人種に付て骨盤の形など云ふものが一定して居る、骨盤の形と申して此處の形がいろ〳〵違つて居る、人種に由つて違つて居る、尤も是は調べた人に由つて少しは違ひますが、先づ其事を大體にお話致しますとマルチンと云ふ人の調に據りますと亞米利加、墺太利、印度、歐洲人種の骨盤は圓形に近ひ、亞弗利加、歐羅巴の方の人種の骨盤は橢圓形で、それから又人に依つて變ますが、高加索人種は一番骨盤が大きくて横に橢圓形で、南亞米利加の方の人は少し三角の狀に近ひ、印度濠洲等は圓くて馬來人種は圓い中の橢圓形、支那は心臟の形、北亞米利加が紡錘狀に近い、さう云ふいろ〳〵な各人種に由つて骨盤の入口の形が違ふと云ふことは事實で、圓いのもあれば四角のもある、横で橢圓形のも竪に橢圓形のもある。いろ〳〵形が異ふことを御承知願へばそれで宜しうございます。さう云ふ風に骨盤の形狀が違つて來る、然るに今御產に就て頭が無事に出ればお產と云ふものは何でもない、何故かと云ふと子供の體の中で一番大きなのは頭が一番で、頭が一番大きいのですから、頭が出て仕舞へば總て後は何でもない、然るに今各人種に由りまして子供の頭の形が骨盤に相當した形を有つて居る、例へば四角、本統の四角ではありませぬけれども、四角の骨盤の人種の子供の頭の形は四角に近い、圓い骨盤の人種の子

供の頭は圓い、楕圓形の者は楕圓形と云ふやうな工合に骨盤の形に相當して頭の形も違つて居る、ところが今此四角い骨盤を有つて居る人種が、圓い骨盤の形を有つて居る人と結婚したと假定して見ると、此口のが女〇のが男、此人が子供を有つた時に阿母さんの方に似た卽ち四角な頭の子供が出來れば宜しうございますけれども、御父さんの方に似た丸い頭の子供が出來たと假定致しますと圓い頭の子供が四角の骨盤から出なければなりません、これは出惡い是は例にお話したので、四角いとか圓いとか申しましても斯んな風に判然しては居りませぬ、唯少し角味を帶びて居るとか、或は圓いとか斯んな風に思つて下さい、圓い頭の人種が阿母さんに似た子供が出來れば宜しうございますが、四角い頭の者が圓い處から出やうと云ふことは非常に出惡い、例へば是と反對に圓い骨盤を有つて居る人の處に四角い頭の子供が出來たとすれば子供が出るのに大變困難である、そんな風な工合で同じ歐羅巴人の中でも形が多少違つて居る、英吉利人も違ふ、獨逸人も多少違ふ、そんな風な工合に頭の形と骨盤の形が大變に違ふ、それともう一つは體格或は骨格が違ひますが、卽ち英吉利人と北方獨逸などは體格が大きな人がある、それに反して南の方の伊太利、西班牙などに行くと小さい、獨逸あたりでは恰度私位の脊の高さの人は中位で、日本人としては私は大きい方であるが、獨逸邊では中等で、伊太利邊に參ると私共はさう小さい方ではありませぬ、大の小位なところであります、そんな工合に身體の骨格が違ひます、現に伊太利などの比較的小さい女の人が北の方の獨逸人の大きな人と結婚した時に骨盤の形が小さい女が、男の方に似た大きな子供が出來ます、それだから尙ほ出惡い、さう云ふ風な關係もありますけれども、いろいろそんな風な工合に日本の人と西洋の人と、結婚する、是は亞米利加の婦人でございますけれども此人は亞米利加の婦人として骨盤の小さい、日本人としては小さくない、普通位の人で、其人が日本人と

結婚して、子供が日本人位の子供が出來れば何の事も無いのですが、亞米利加人の阿母さんの方に似て大きな子供が出來た、それだものですから何時も日本人の骨盤として、亞米利加型の子供が出來るものですから、何時でも早く赤兒さんを出さないと云ふと十ケ月になつては子供が中々出惡くなる、そんな風な關係が出來る事が今御話したやうな關係である、體格それからして頭の形が違うので大變お産が重いことが多い、日本では斯う云ふ風な雜婚などゝ云ふことは少ふございますし、殊に大抵島國の人は甚しく重いお産は少ない。

概して申しますと、西洋人の方が時間も經るし、重いお産が多い、其理由は唯今までお話した通りであります。今日は先づ此位で御免を蒙ります。

叢談

家事衛生

醫學士　岡田昭雄

昔は家事衛生には餘り重きを措かなかつた。有名なウエールの衛生學全書にでも、住居の健康に及ぼす影響は、大體、社會的地位が健康に及ぼす影響に一致するように記してある。また統計家も住居の健康に及ぼす影響は極めて尠なく、數字で示すほどのものでないと云ふて居る。然し一棟の長屋で同じ大さ、同じ向きにあり、そして住んで居る人の數も同じであるのに、一軒の家では衛生狀態がうまく調和し、他の家では病氣の絶へ間のないと云ふ所がある。これによつて見ても住居の健康に及ぼす影響は至大なもので、決して蔑視すべきものでない。然らばその

弊害は何うして除くべきかと云ふに、これは迚も外部から定めた規定規則では駄目な話しで、内部の家事衛生を改良し奨勵するより外に途がない。

健康な住居は一定の大さ、即ち廣さと高さを要し、また十分なる光線と空氣の流通が必要である。住居の健康に及ぼす障碍には二つの原因がある、一つは住居の建築法で、他の一つは住居の手入れである。前者にする弊害は設計の不完全なためで、室の狹いのや、光線や空氣の通りのわるいのは、皆設計時の粗漏に原因する。其他また建築材料の不良なのも原因の一つで、家菌の樣なものは新しい材木から來る。また壁の構造によつて濕氣を多くする事もある。然しこれ等は建築法を改良すればとり除くことが出來るものである。

斯く建築法が健康を阻害する原因となる場合は決して尠なくないが、これよりも寧ろ住居の非衛生的、非健康的手入れのために來るものゝ方が一層多い。この事實は衛生掛りの皆口にする事で、始めからこれは健康によろしくない家だと認めるものは比較的尠ない、新築當時は全く衛生的であつたものが、時日の經過と共に手入れがわるく漸次非衛生的のものとなる。故に衛生掛りの第一になすべき仕事は衛生法に適つた家屋の手入れ法を世人に普遍せしむることであらう。

この住居の手入れはこれに住むものゝ倫理的、社會的並びに經濟的觀念と密接な關係がある。自分は曾て何所かで收入以上に住み、收入に應じて食し、收入以下に飾れと云ふ諷言を聞いたことがある。これは仲々意味の深い言葉で、綺麗なよく手入れの行屆いた家に住むのは誰れも愉快に感ずることで、このために要する多少の失費位は他の方面で節約すればよい、たとへば主人が一夕の酒宴費でも事足る次第である。

室の少ないために大きくなつた男女を一室に臥させたり、または父母と寢室を共にすることなどは、倫理上から見ても餘りよろしくない。

住居の手入れを十分にするには監督者を定めるがよい、これには婦人が最も適當のように思はれる。家事衞生の二大敵は濕氣と塵埃である。濕氣に對しては只風通しをよくすればよいのであるが、明け放しにすれば寒くなる恐れがある。然し障子を一時間も明けておけと云ふのではない、汚くなつた空氣を新しいものと入れ換ればよいので、何も新しい空氣をどし〳〵吹き通しにする必要はない。長く障子を開けておけば夏では壁、障子、家具等が熱せられて後に熱を放する害がある、冬なればこれ等が冷され障子を閉めてから冷氣を出し、または發濕裝置の濕度を奪ふ恐れがある。衞生家は二分乃至五分間開けておけば十分だと云ふてゐる。

これに反し塵埃の始末は誠に六ケしい。これには明け放しも效がない、只よく拭きよく掃除する外に途がない。座布團などは拍いて塵を掃ふことがある、これは一時塵がとれるかも知れぬが、舞ひ上つた塵は再び降りて來る、こう云ふ時には何か濕つたもので座布團を包んで拍くがよい、西洋には除塵器と云ふものが工風されてゐる、これは稍高價なもので、立派な住居の外用ふるものがない、何れこの輕便なものが出來て、何の家にも備へつけられるやうになるだらう。

一軒の內で一番よい室は大抵お座敷に使ふ、そして風通しのわるい、日當りのよくない室が寢室に當てられてゐる。これは何の點から考へても衞生的と云ふことが出來ない。また夜具の始末についても大抵の家では朝早く牀を上げ、押入れに封じ込めるようになつてゐる。これも間違の一つで夜具はなるべく長く風や日光に晒し、出來れば毎日よく拍いておくがよい。また朝に限らず午後でもよいから風にあてておくがよい。と云ふも、萬年牀と云ふのは餘り賞めたものでない。

觀賞用の草木を室に飾ることがある。これも餘り澤山おいてはよくない。植物は夜になると炭酸瓦斯を呼出すから室の內に入れておくのは、人間に害の

ある許りでなく、植物そのためにもよくない。またこれを日當りのわるい室で明りとり窓などに竝べておくこともよくない。二階に涼み臺を設けるのは家と町との關係によつて得失がある。人家稠密のところでは涼み臺へ出て新鮮な空氣に觸れるのは望ましいことであるが、風のつよいところでは却て害がある。

臺所は最も衞生的に設けておかなければならない。茲では常に蒸氣と瓦斯が出來るから通氣に十分注意する必要がある。また塵の出來易いところであるから日光を十分とつて掃除に都合よくせなければならない。家によりては臺所で下駄だの靴だのを掃除し、また洗濯をするところがある。これもよく注意せなければならぬことで、お料理をする勝手と洗濯をするところとは別々に設ける必要がある。

要するに家事衞生の根本となるものは掃除、通氣、保溫の三條件で、これさへうまく調和がとれてゐれば、衞生的のものと云ふことが出來る。この家事衞生を完全にするには法定の規則で強ゆるのも一方法であるかも知れぬが、尙これよりも一層必要なものは各自の心掛けである。このため小學校の上級生には家事衞生の簡單な課目を加へるがよいと思ふ。然しこれは單に自分の希望に過ぎない。

家庭と結核

ドクトル　富士川游

現時の醫學の知識より言へば、結核は小兒の疾病である、小兒の時に、これを受くるのであるから、小兒の時に、これを豫防し、治療し、全癒せしむることが必要である。故に結核を豫防するには、學校及び家庭とが、力を當局者及び醫師に添へて、相共に其の事に當るやうにせねばならぬのである。

結核の原因たる結核菌が、身體に入るには色々の道があるが、第一に擧ぐべきは生の牛乳が、其の内に結核菌を含むで居る場合で、それを飲むと、消化器

の方からして、結核は傳染するのである。されば、乳兒の乳汁を呑む場合に、此の點に注意せねばならぬといふことは言ふまでも無い。しかし、此の事は、已に世の人が十分注意して居ることゝ信ずるから別にこゝに論ずるに及ばないのである。

手は種々の物品に觸れ、又其の爪甲の下には汚垢が蓄積して、幾百萬の黴菌を保存するものであるから手を清潔にするといふことは、傳染病を豫防するにつきて、必要とする所である。故に小兒に手を清潔にするの習慣をつけしむることは肝要で、殊に食事の前には必ず手を洗はしむるやうにせねばならぬ。英國の小學校には、小兒の手を洗ふに十分の設備がある、獨逸國の小學校では、此の設備が十分でないからこれを十分に設備すべしとの註文がある。我邦の手洗所は、家庭のも、學校のも、多くは不十分である。手水鉢の具合から、手拭の具合など、寧ろ洗はない方が清潔であると思はれるのが尠なくない。家庭のことは別問題とし、小學校の手洗所は一日も早く設備を十分にして、それから小兒をして其の手を清潔にするの習慣をつけしむるやうに敎育せむことを希望せざるを得ない。

小兒は、殊に夏期には、水を飲みたがるものであるが、學校では一人に一個宛の水呑を備ふる譯にはゆかぬから、勢ひ一個の水呑を數人の小兒が使用することになる。これは結核などのやうな傳染病を豫防するにつきて不都合のことである。故に、小兒には、銘々其の家庭で一個宛「アルミニューム」製か、陶器の水呑を與へ、それで水や茶を呑むやうにせしむることが肝要である。

飲食物の清潔といふことも重要のことで、たとへば果物の如きは、多數の人の手に觸れて、その表面には何萬の黴菌が居るかも知れぬ、野菜でもそうである、故に果物や、野菜などは十分にこれを洗つて、清潔にしたる後に、食するやうにせねばならぬといふことを小兒に敎ゆることが肝要である。

口腔は結核菌の最も這入り易い門戸である、殊に齲

齒から結核菌の體中に侵入することの多いといふことは近時諸家の說く所である。故に家庭では小兒の齒牙に注意して、常にこれを清潔に保たしめ、齲齒あれば速かに治療を加へ、學校では齒牙診療の設備をなすことが肝要である。獨逸國では、現下此の目的のために、小學校に齒科「クリーニック」の設備をなすことが近時行はれて居る。これは結核の豫防のためばかりでなく、小兒の身體の健康を維持する上に必要のことである。我邦では、せめて、定期に小學校生徒の齒牙を檢査して、若し病めるものがあれば相當の治療を施すやうにせねばならぬことゝ信ずる。

唾壺は、學校にも備へてあるが、たゞこれを備へたといふばかりで、其の取扱の衞生の趣旨にかなはぬのは遺憾である、唾壺は消毒藥を入れて、その上に蓋をなし、蠅がとまつて、其の病毒を他に傳播することのなきやうに注意せねばならぬ。痰が乾くと、結核菌も共に飛散するから危險である。小兒に唾壺以外に痰を喀かしめぬやうに敎ゆることは最も肝要である。

現に府下の小學校で、當番と唱へて、生徒に、敎室の掃除をなさしむることは、間々見受るやうであるが、これは結核の豫防上には注意すべきことである。我邦の掃除の仕方は、塵埃をかき廻はすので、塵埃と共に沈澱したる黴菌を散亂せしむるが故に、若しその內に結核菌があれば掃除は小兒に結核菌吸入の好機會を與ふるものである。家庭でも、學校でも、全體に掃除の方法を改良することは、衞生上必要のことであるが、今日の狀態で、敎室內の掃除を、纖弱の小兒に命ずるは、危險のことゝ云はねばならぬ。

結核を病める小兒の、食器、夜具等はこれを他人のものと別にせねばならぬ、其の居室を消毒することは結核豫防の上に大必要である。これには日光消毒を施すを便利とするが故に、學校の建築に注意し、その敎室には常に十分の日光の入るやうに設計することが肝要である。府下で、近頃新築せられる小學

校は、大抵大厦高樓で、外面より見れば頗ぶる立派であるが、內容も同じく立派であるが、衛生の見地よりして賞讚することが出來るか、これは我々の知る所でないが、小學校の建築には、十分此の點に注意せねばならぬことである。

學校の教科には唱歌等の高く音聲を出す場合がある、若し小兒に結核病者が居るとすれば、高聲を出すために、結核菌を含める唾液を近傍に散亂するの虞がある。それで此の場合には結核性の小兒を、座席の前列か、外列かに坐せしめて、唾液が隣席の小兒に及ばぬやうにするがよい、これは些事のやうに見ゆるが、衛生上には實際甚だ重要の件である。

以上、述べた所は、結核菌の侵入に對しての豫防に就てのことであるが、それよりももつと、重大なるは結核に罹るの素因に就ての注意である、全體、結核に罹るの素因は、先天性のものであるが、後天性にもこれを生ずることが多いのであるが、學校は家庭と相協力して、これを防ぐことにつとめねばならぬのである、此の點に就て、いふべきことは隨分多いが、第一に、小學校の小兒は、骨の發育の最中の年齡のもので、惡るくすると、胸廓の骨(肋骨)の發育を害して、呼吸の運動を妨げ、これが爲に肺結核に罹り易い素因をつくるものであるから、小兒の骨の發育に注意することが必要である。此の目的に對しては、呼吸を深くする體操をば規則的に施すべきである。脊椎を正直の位置に保つこと、上部の肋骨の運動を十分ならしむること、肋間筋及び胸筋の運動を強くすること等の目的を達するやうに、適當の體操又は運動、遊戲等を施すを必要とする。これに聯帶して體操服の注文もある。體操時間の注文もある。今日現に行はれて居る小學校の體操に就ては、此の點に於て、非難すべき箇條がある。近頃俗間に流行する深呼吸法などを、無暗に小學校の生徒に行はしめることなどは、危險の至である。體操は是非とも、規則的のものでなければならぬ。

小兒は教室にありて、身體を前方に屈し、脊椎を屈

し又胸部を机に壓するのが常である。机を立派のものにしても、教師が訓戒しても、だめである。小學校生徒の百人中九十五人までは姿勢が惡い、これは家庭でも注意を要することである。

家庭にありて、小兒に、早くから重い物を運搬するやうな仕事を命じてはならぬ。片一方の手で、重い物を持つときは身體を斜にして、肺尖腔を狹くするから、結核に罹るの素因を增すものである故に、學校荷物を片手でさげて、小脇にかひ込むのはよろしくない、十四歳位までは背嚢に入れて、背に負はしむることが一番である。

游泳は呼吸を十分にし、深くし、且つ身體を淸潔にするの利がある、故に、耳などに特別の注意をして一定の規律の下にこれを實施することは結核豫防に有效である。

休暇時旅行、遠足等も同樣の效がある。今日の小學校で、運動會を遣つたり、遠足をしたりするのは、衛生上の註文に外れた遣り方で、非難すべきであるが、衛生上の註文に應じて、これを實施することは有效で、且つ必要のことである。

以上は、たゞ大要を擧げたのみである。しかし、これだけでも、今日の學校衛生上、大に注意せねばならぬ點の多いといふことは明かである。委しいことは、他日、その個々に就て論述しようと思ふ。

貧血と補血藥（承前）

貧血の療法

貧血の療治には、貧血を來すべき原因が、醫師の診斷に依て確かめられましたならば、その原病を治すことが最も大切なことであります。然るに俗人は、醫師の診察治療代を儉約しやうとして、色々の廣告に見えて居る所の賣藥を求めて手療治を試みるのであります。慢性の病氣で、差當り危險がない場合には、兎角斯うなり易いのも無理はないことでありまするが、扨てその賣藥も何等かの效能は有つて居り

ませうが、多くの場合に於きましては、丁度その病氣に適合することは六つかしいのであります。所謂鐵砲藥で、丁度當れば宜しいが、それもまぐれ當りで、大抵ははづれるのであります、例へば、こゝに腎臟炎に罹つて居る娘さんがあると致します。併しちよつと外から見たゞけでは、素人には勿論診斷はつきません。そこで只何だか顏色が良くないからと云ふので補血製劑を與へて置いたらば何うでありませう。本病たる腎臟炎には氣付かず、從つてその方の治療は施されませんから、これが爲に遂に殆ど不治の慢性腎臟炎に陷つて仕舞ふと云ふやうなことになるのであります。或は走奉公をしてゐる顏色の惡い伜の爲に、そのお袋さんが、大事の巾着から金錢を出して鐵劑を買ふて、その伜の貧血を治ほしてやらうと致します。所が實際は肺尖の結核に罹つて居るので、早く診斷がついて、慈善病院とか救護所乃至保養院と云ふやうな所の世話で十分治療を施しさへすれば、隨分全治の見込があるものを、斯樣なことの爲に却て時期を失して最早取返しがつかぬと云ふやうな例も少なくありませぬ。或は胃痛に惱んで居る所の娘を、これは貧血のせいであると云ふて、藥屋のおせつかいに任せて滴劑とか丸藥とか樣々のものを買ふて飲ませます、だが何うも思はしくないので、とうとう終に醫師の許に行かざるを得なくなる。而して診察の結果は、胃が惡いのではなくつて、婦人臟器の加答兒性刺戟に因るもので、別に心配する程のことでもなく、多少生活法を變へれば、それで治つて仕舞ふと云ふやうなものである。そこで不適當な製劑を長い間續けて用ひたが爲に食慾を害し、偖ては漸次眞正の胃痛をも起して來ると云ふ場合があるのであります。

そこで先づ第一の問題は、本病或は原病は何であるかと云ふことで御坐います。この問題は醫師でなければ決定することが六ケしい。貧血は往々只不適當な生活法と不適當な榮養の結果に過ぎないことがあります。斯ういふ場合には、新鮮なる空氣と、十

分の日光と、妨げられずに十分長く夜る休む事は驚く程著しい效能があります、殊にむさくるしい家の中にみじめな生活を仕て居つた人を、右のやうな良好な設備のある病院などに入院をさせて、療治をいたしますならば、みる〳〵效能が顯れまして、種々治療上の原則に從つて料理された食物は、非常に治療の效能があるものであります。

委しい事は略しますが、貧血には勿論二三の反對論者もありますけれども、まづ一般に蛋白質に富むで居る食物を盛んに與へるのであります、從つて蛋白質製劑も應用せられます、蛋白質製劑にも、殆ど數限りなく種々の物が出來てをりまするが、まづ獨逸あたりで評判のよろしいのは、「プラスモン」と「フォルトーゼ」で御座います。この兩品は子供でもよく用ゆる事が出來ます、但し「フオルトーゼ」は全く味はひはありませんけれども、室內で調理いたしますると、魚膠の臭がいたしましていけぬものでありますから、臺所で調理して、病室では拵らへぬ方がよろしう御座います。そしてこれは食物の中に混じますると、全く跡形もなく消へまして藥を加へたものとは思はれません。然し病人にはたゞ、食物を與へるのみでは駄目であります、眞にこれを攝取する事に注意をしなければなりません、特に小兒及び稍成長した小供でありましても、往々食事に慣れず、思ふやうに榮養の目的を達し難いことがあります、子供と云ふものは、これがいやだ、あれが嫌いだと申しますが、場所が變るとか或は花園又は林森の中で運動をするとか、或は海濱で遊ぶとか云ふ場合には、先きには食べなかつたものも、人一倍に食べたりするものであります、倘幾那丁幾の如き食慾を亢進せしむる藥を、一二滴程與へますると云ふと、思ひの外食慾が付いて、いまゝでの貧血が一頓にして治する事が御座います。然しながら別段これぞと云ふ、原因も見出す事ができず、實際血液の成分に著しい變化があると云ふ場合には、醫者は原病の療治の外に、又血液の性質を良くすると云ふ事に努めるので

ありまするが、この場合には單に、食餌的理學的療法だけでは效を奏しかねまするので、殊にこれを應用し難い場合には猶更の事でありまするが、この場合には止むを得ず補血劑を用ゆる事になるのであります。

天然には血液を作るに、特に效のある元素が四つ程御座います、即ち砒素、鐵、滿俺及び沃度で御座います。

砒素

砒素の強壯劑たる性質は、既に昔から知られて居つた事で御坐いまして、砒素と云ふものは、非常に有毒な恐るべき藥でありまするが、極少量づゝ用ゐてまゐりまするど、身體が段々これに慣れてまゐりまして、遂には餘程の大量を用ゐても、害がなくなると云ふ特性が御座います。これが補血劑として用ゐられまする理由は、砒素は直接に、血液の製造元たる脾臟や骨髓に作用してこれを刺戟いたしまするので、それで血液生成を助ける事になるのであります。

砒素は初めから身體の中にあるものでは御座いません、又食物と共に這入つてくるものでも御座いません、天然には多くの泉水の中に含くまれて居りますが、然しこれも純粹に砒素のみあるわけではなく、大抵鐵と化合して含くまれて居るものであります、人工的製劑の中では、まづホーレル水が名高いもので御座いまするが、尚砒素植物蛋白製劑たる「アルザン」動物蛋白から製したる「アルゼシリチン」などと云ふやうな物も御座います。砒素は製造者側からは、何時でもその製劑については辯護をされますけれども、往々砒素は胃の壓迫感覺、その他の消化障礙を來すことが御座います、尤もこれは個人個人に依つて大變違ひがあります、そこで砒素は胃を避けて身體の中に入れるのがよいと云ふ考へから、注射法が試みられる事になりました、例へば、「アトキシール」とか「アルザツエチン」とか「チオアルチコチール」とか云ふやうな者の注射が試みられますが、これにも亦思はしくない隨伴症狀が起りますので、か

やうな療法は、たゞ非常に甚だしい貧血狀態の場合にのみ嚴重な醫者の監督の下に行はれなければならぬ事であります。

鐵及滿俺

鐵も以前から貧血に對する藥とされて居ります、然しながら、鐵が治療上身體に及ぼす處の作用に付ては、まだ全く明らかになつて居る譯では御座いません、身體の中には鐵は僅に三瓦位しか御座いませんので、鐵の收支は、自然の食物に依つて供せらるゝだけでは十分でありません、食物は鐵を含んで居ります、又含んで居なければなりません、そしてこれは月の進んだ哺乳兒及び稍成長した小兒の榮養には必要な事であります、卽ち哺乳兒は、その肝臟の中に幾分か鐵を貯へて居るのでありまするが、母乳及牛乳は甚だ鐵分に乏しいので、段々それが用ゐ盡されて仕まいますそれは大約七ケ月で用ゐ盡される、そこで再び食物と共に鐵を攝取しなければなりません。でありまするから、この年齡に於て鐵に富んだ野菜を與へたいのであまります、鐵を含んで居る野菜と申しますと、菠薐草、百部根、綠甘藍、胡蘿蔔の如きものであります。

いま百瓦の乾燥物質の中に含んで居る、鐵の量を示した表がありまするから左に揭げて御目にかけます、その數字はミリグラムで示してあります。

菠薐草	三三乃至三九
百部根	二〇
綠甘藍	一七
胡蘿蔔	八
卵黃	一〇乃至二四
馬鈴薯	六
麥粉	一
豚血	二二六

然し食物と共に身體の中に這入る所の鐵の量は、貯藏されるものではなくて、悉く又排泄されてしまうのであります、それでありますから鐵に乏しい食物の爲に起ると云はれる所の障碍は、これは他の原因

に依るものとしなければなりません。鐵は血液を作る所の臟器に刺戟を與へる作用があるものと思はれて居りまするが、食物と共に攝取される所の有機的鐵分は、身體の細胞に依て少しも變化されないと云ふことが、試驗に依て發見されました。でありまするから、食物の鐵分が少ないと云ふことは、元より身體の鐵分缺乏の原因の一つではありませうが、併し特に鐵分に富んで居る食物が、他の原因或は獨立の疾患から出來する所の鐵分缺乏を補ふことは出來ないのであります。これには獨り鑛物性の、無機性の鐵が役に立つのでありますが、併しこれとても矢張主として一種の刺戟要素となるのであらうと思はれる。卽ち一部は血液を製造する臟器たる骨髓及び脾臟の上に直接に作用し、一部は身體を通じて、血液に出て細胞の方へ運ばれ、そこで以て種々の組織作用を起し、殊に血液から酸素を取つて、腸に行き、又一部は尿の方に移行いて、別に身體に貯蓄さることもなく、再び排泄されて仕舞ふのであります。併しこの學說は決して確實なものではない、又必ずしも經驗に依て證定されたものでは御座いません。けれども兎に角鐵は貧血に對して最も良好の作用があるものであると云ふことを敎へて居るのであります。

無機性の鐵は、種々の形にて服用することが出來ます。純粹の金屬化合物として、或は「アルビミン」、「ペプトーン」、「レチチン」又は糖の如きもの丶有機性化合物として用ひられます。それで此種の製劑と云ふものは、實に無數に出來て居りまして、それを一々批評すると云ふ事は迚も出來ない事であります、かやうな澤山鐵製劑のありまするのは、何れも效能がないからと云ふのではない、たゞ成るべく外に出て仕舞う分を少なくして、身體の中に止め得る分を餘計にしたいと云ふ處から、幾通りも製劑が出來る譯であります。

次に製劑そのものに付いて、どんなものがあるかと申しますと、まづ第一にあるべきものは鐵の鹽類で御座いますが、これには格魯兒鐵丁幾となつて居る

處の鹽酸鐵、丸藥或は粉末になつて居る乳酸鐵、林檎酸鐵丁幾などゝ云ふものが尤も單純な藥劑で、而も最もよいものとせられて居ります、それから芳香性の物質や、苦味劑を配合した處の鐵丁幾もありまして、これは一方に食慾を亢進させる效能があります、尚「アルブミン」「ペプトーン」及糖の鐵製劑は多少飲みよいものでありまして、例へばドレー氏の製劑、又蛋白質が既に幾分か消化された狀態になつて居る、「ペプトン」化鐵丁幾それから普通の鐵糖の如きものが御座います。「トリフエリン」と云ふものも矢張蛋白が豫め消化された形になつて居ります、古いものではブロード氏丸と云ふものがありまするが、これは石炭酸鐵と砂糖で出來て居るものでありまして、石炭酸那篤倫を含んで居りまするから、消化し易く又便祕を來す事はないと申されて居ります。多數の製劑は過剩の酸や「アルカリ」を含んで居りまするので、胃を刺戟いたしますから、こんどはこれは中和した處の物がいろ〳〵出來て居ります、例へば「フエラチン」「フエラトーゼ」「アテンザ」などと云ふものであります。又通常の糖の代りに屢々麥芽糖が用ゐられます、種々の製造所で造られます處の鐵マルツ越幾斯は貧血性の榮養の惡い小供に用ゐまして往々著しい效能のある事があります、又貧血には蛋白に富んだ食事がよいのでありますから、種々の鐵と化合した蛋白製劑が拵らへられて居ります、例へば鐵「トロポン」鐵「ソマトーゼ」、「アルボフエリン」其他澤山御座います、かくの如く無數に鐵の製劑がありまして、何れも一番よいと稱して居りますが、實際これを一々試めしてどれが效能があるかないかを判斷する事はむづかしいので御座います。次には滿俺で御座いまするが、これもその性質は鐵の作用に類したものであります、そして凡ての鐵泉は又この滿俺を含んで居りまして、これらの鑛泉は貧血療法に大效があると云ふて西洋では種々の温泉場が年々繁昌して居ります、大抵一部分は硫酸鐵、一部分は炭酸鐵を含んで居るのであります。その製

劑には滿俺「ペプトン」鐵液と云ふのは、よく處方されるところの安価でよい製劑であります、その他幾那皮と組合せたものも御座います。最後に砒素と、鐵との合劑も出來まして、近頃の研究に由れば、これが特に有效だと云ふ事であります。

沃度

沃度も亦血液の組成には大切なものでありまして、沃度或はその「アルカリ」と結合したものは、鐵と一緒に致しますれば、特に腺病及び佝僂病に依て小兒に來る所の貧血には效能が御座います。これには、沃度「フエラトーゼ」、鐵サヨゲン」又古から用ひられて居ります所の沃度鐵合利別などは善い製劑で御座いませう。

（以下次號）

左手の養成（承前）

ドクトル　インフレッド、フレンケル述

A、S、生抄譯

左手を使用することは、身體的關係に於ても侮るべからざる必要が御座います。卽ち左の肺臟、左の眼も、これに由て同一程度に練習され、發達せしめらるゝ利益があります。實際雙手教授に依て、生徒が字を書いたり圖畫を描くときに取る所の有害なる姿勢の偏頗が除かれます。然ればドクトルノーブル、スミス氏は、『身體的畸形を豫防し或は除くには、吾々が今日有する所の總ての複雜なる練習法よりも效力が多いものである』と申して居ります。又左手養成教師のタッド氏並びに多數の小學校員も斯う申して居ります。『誰でも兩手の教習の成績を觀た人は、生徒に及ぼせる良好の作用に就て強い印象を得る筈である。これは、智識の方面に於ける大功を別とするも、兎も角も善く起立し、頭首を眞直にすることは事實である。且つ左手を練習すれば、右手も亦大抵の作業について益々巧になるものである』。

尙ほ先天的に右手の傷はれて居る人も、これに由て

役に立つやうになり、仕事に際して右手に傷害を被むつた人も、終生仕事が出來なくなることを免がれ且つ疾病年金などを貰はずとも宜しくなります。

戰爭に於てはこれは、特に重大なる事實であります。即ち僅かばかり右手を負傷すると、それでもう直に戰爭力を失ふて仕舞ふのであります。こゝに於て左手が利いて居つたならば、何の位一軍の戰鬪力を支へる上に效果があるか分かりません。

又兩手利は、速に疲勞することを防ぐ上に於て、將た彼の恐るべき書痙を豫防する上に於て效がないでありませうか、一寸考へて見ましても、只力を出すだけの仕事であつても、又特に巧を要し熟練を要する仕事であつても、既に一方の手が疲勞すべきものと云ことが、分かつて居る時に、更に他に同様に働き得る所の一方の手を有つて居ると云ふことは、實に少からぬ價値のあることであります。其他左手を使用することの必要な機會は澤山ありまするが、これが、說明には、次の手紙が適當である。

これは、ある老年の職工長が、兩手利の有益なことに就て、私に寄せた所の手紙であります。

『右手と同様に左手を躾け候ことの價値は、既に五十年前、小生が鎖匠の稽古に參り候時分に承知致したる所に御座候、手前共に於ては、奇妙の風俗有之、偶數日には右手を用ひ、奇數日には左手を用ひて鑢を掛け、鋸を引き、截る等の習はしにて、而かも隨分嚴重に守られたるものに候ひき、この目的の爲に、仕事場には一枚の鐵葉板懸けあり、その一面には右にて書き、他の一面には左にて書き、毎日打反されたるものに御座候。手前共若年の輩は、仕事場に於けるこの兩手使用法を、只うるさき事にのみ思ひ候ひて、當時脳の事などは聊かも思及ばざる所に御座候ひき、誠に手前共同年輩の稽古仲間に於ては、右も左も大したる値打とては無之こと故、尤の次第に御座候。この兩手使用の流儀とても、專ら手先を巧者に躾けんと欲したるまでの事にて、別にさしたる目的とても無之、

ものに候へしが、後々に至り、職人と相成候上にて、鑁前に座り或はその他の處に臨み、右手にて叶はざる際に、左にて截り或は鑢り候折には、兩手利の難有味を覺え候事も屢々御座候ひき。然れば、これは鎖匠或は補鑁匠に取りては元より重寶の事に御座候得共、小生は轆轤工に取りても、轆轤の上にて鑢などを掛け候際に、左腕を盤板に摑まれそうに相成り、最も僥倖の時にても、上著の袖引裂かれ候やうの危險を免るのゝには矢張大切の事と存せられ候。然れば小生の轆轤の方の弟子共も、左手利に成らざるを得ざるやうの始末に候ひき。小生は上に申述べ候やうの危害に逢ふたる事も無之、從つて彼等が左側の脳よりも右側の方敏活に候得しや否や、其近の事はしかとも確め不申候得共、併し甲斐〴〵しき働手に御座候ひき。萬一前の如き場合も有之候得しならんには、小生は實に此の如くにして、計らずも氣樂と裨益とを併せ得たる事と存じ申べく候。

是を以て初心の手工共には、是非兩手使用法を勸め度きものに御座候』。

私は、この方法を以て、今日中絕して居る所の活きた力の五十「プロセント」は確に再び獲ることが出來ると信ずる、且つ勞働社會にも軍隊にも實行せらるべきものと信ずるのであります。

段々調べて見ますと、隨分名高い男子及び婦人の間にも左手利の人が澤山御座います。左手利と云はんよりは兩手利の人である、何故ならば左手は生來よく利き、右手は强て練習して利くやうになつた人々であるからである、少しく例を擧げて見れば、レオナルド、ダー、ウインチー、アドルフ、メンツエル、ミケル、アンジエロー、ホルバイン、ランドセール、ウイルソン、バーデン、ポウエル將軍、ヴイクトリヤ女王、レードと云ふやうな人々はそれでありました。今日と雖、凡て左手利の人は右手利の人よりも餘程利益があります、卽ち彼等に取りては、元來その繼母同然の右手の敎育に依て、兩手利になつて居

るからであります。故に吾々は、普通の習慣上では、それは全然「間違てゐる」とか「惡い」とか云ふて非難して居る所の兩手利を是非勸めたいのであります。

この兩手利の恩惠は、英國の報告に依て見ると餘程價値のあるものである。英國の敎員逹は、兩手利のものは、同年齡の片手利のものに比較すると、平均して大に活潑で、快濶で、判斷力も良いと主張して居る。又全體の課業も迅速に且つ良好に進むと申して居ります。卽ち敎員側から云へば、勞力が少なく、生徒側から云へば快く且簡單に學ばれる。而して後來製造所、工場、商店、事務所、遊技場等に於ても萬事迅速且良好に仕事をすることが出來る譯であります。又兩手利の敎育を致しますと、短期の後に、左手が敏捷になり、感じが細やかになり且自由がきくやうになり、而もそれが大抵右手に優ると云ふことは、實に不思議にも顯著なる現象であります。これは單に小兒のみならず、成人になつてから初めて兩手利の稽古をした人々に就ても認めらるゝ所であります。故にこの練習は、決して人々の思惟するが如く餘計の仕事を增す譯ではない、否、反つて仕事を輕くし、仕事を分配する譯であります。記憶の事に通じて居る名高い人々は、何れも兩手利は、記憶力を强めるに有力なる一つの手段であると申して居ります。

吾々の偏頗なるこの狀態を、兩方の利くやうに變改することの出來るのは只小學校だけであます。それで學校に於ては、是非左手を以て書くことを奬勵しなければなりません。兒童は、總ての事を左手で以て右手と同樣に善く出來るやうに奬めるのであります。斯くして人類の爲に佳良の成績を齎すべきこと必定であらうと思ひます。

更に重要なることは、兩手を同時に用ひますと、殊に文字を認める場合に眞直の姿勢を保ち得ることでありまして、これは、眼の爲にも、脊髓の爲にも亦肺臟の爲にも宜しいことで、書寫の姿勢と云ふこと

は、今日では衛生上からます〱必要の事になつて來て居るのであります。

要するに、文明人は、さなくとも理由なく故意に左手を僅しか使用せぬのでありますから、大に左手を使ふやうに注意することは必要のことゝ思ひます。小兒は最初より出來るだけ努めて兩方の手を自由に使ふやうに躾けなければなりません。而して左手に對する傳習的偏見を破らなければなりません。學校も家庭も一般にこれを奬勵して從來閑却されて居つた所の左手を適當に敎養すると云ふことは現代の敎育に於て極めて重要のことであらうと思ふのであります。

（以下次號）

育兒

言語の衛生

言語と云ふものは、精神を人に傳へるのに最も大切なるものでありますが、これは人間に於きましては、單に思想觀念を構成するに必要なるのみならず、又精神の發達に必要なものであります。故に誤のない言語を使ふことが出來ぬと云ふ場合には、これは、精神の發達にも、思想觀念の構成にも妨げとなることで御座います。それ故に斯樣な人は、これが爲に、種々の職務に適しないことになります。その言語が普通でないばかりに、其他の事は差支が無くとも、社會に立つて大に困難を感ずるのであります。

種々の言語障碍の根源は、小兒時代にあるので御座いますが、多くの兩親、就中母親は、この惡い芽を注意して芟除く代りに、反つてこれを助成するのは誠に遺憾なことであります。

凡て幼兒が遭遇する所のことは、皆その模範となるのでありまして、嚇すことでも嚇にはならず、反てそれを模倣するのであります。實際小兒の智慧と云ふものは、最初は何時でも自然の模倣に依るもので

ありまして、驚くことでも、怖れることでも、氣に入ることでも、小兒には深き印象を與へる、而かもその氣に入ることは必しも何時も善いことばかりでは御座いませぬ、往々自分の小兒が何處で、その樣な惡い言葉を覺えたらうかと、驚くことが屢々ある。而して段々詮索をして見ると、小兒に最も近い周圍の人から學んで居る。しかのみならず往々最も信任して居る人から起つて居ることを發見することが御座います。兎に角善良なる模範と云ふことは極めて大切なことで、特に幼少の者の前には常に善例を示さなければならぬことであります。

小兒は、最初より言語の純正にして立派な人に就て學ぶことと云ふことは極めて大切な事柄であります。希臘人は、その文明の極期時代に於ては、右の原則に據て、その小兒は常に只言語の正しい奴婢にのみ守をさせたものであると申すことで御座います。然るに吾々に於きましては、未來の演說家或は說教家たるべきものゝ言葉の使ひ初めは、無智文盲の乳媼に依て指導されるのであります。尤も英國邊では、佛蘭西や獨逸の養育掛を選擇するときには、非常にやかましくその方言に注意すると云ふことでありますが、その小兒時代の大半は、その仲間となつて送るべき召使に就ては、左程この點に就て注意をしないさうであります。併し召使等に至るまで、正しい方言を用ひ、文法に適つた發音をさせると云ふことは、同樣の價値を置かなければならぬ事であります。但し嬰兒の發音稽古に專門の文章家や文法家を聘して監督せしむるにも及びますまいが、子守娘を撰擇する際には、多少この邊にも注意して、發音正しく、恐くは又少し歌を謠へるものと云ふ位の註文はして宜しからうと思ひます。

一體人間は、凡ての事に於て、最も便宜な都合の善い事を選む性質を有つて居りまして、小兒が話し始める時にも矢張そうであります。それで元來その言語がむづかしいか或は小兒の發音構成に困難なものであると、小兒は他の發音をしてこれに代用し或は

間に合はせやうとするものであります。此時に最初より教育的に矯正致しませんと、やがてそれが練習され、習慣となつて、その不正を直すことが出來なくなることがあります。然るに多くの父母は、優柔或は堪忍して、その小兒の糊塗なる、わけの分からぬ發音に便宜を與へ、正しい言語を話さずして、故意に可愛らしいとか、可笑しいとか云ふて、間違つた不正の言語を話しかける。而して後になれば自然そんな言葉は使はなくなるから差支ないと信じて居る。所が何時もさうは行かぬ場合があります。吃音とか、だら〳〵した口のきゝやうをするとか、或はべちや〳〵粘るやうな口のきゝ方は、全く自分の教育の罪であつたと云ふことに驚く所の兩親も稀であるまいと思ひます。

小兒には正しい言語の模範を示せば、自然と正しい言語を用うるやうになるものでありまして、これには家庭に於て常に立派な正確な言語を用うることが必要で、決してあまへるやうな不明瞭な言語を使うてはならぬのであります。

併し斯様に注意を致しましても、他の子供等と遊ぶやうになつて後戻りをすることが御座います、即ち街中や、遊戯場や學校に於て、矢張模倣をして惡い言葉を覺える、而して家庭に於て折角作つた所の土臺を壞すやうになりますけれども、家庭の躾がしつかりして居れば、周圍の言葉の惡い子供の影響を受けることは思の外少ないものであります。

然し單に正しい言葉のみならず、美しい言語の調子と云ふものも、教育ある人物を示す所の特徴であります、言語の爽かに美しいと云ふことは、教育ある社會に於てよりも、寧ろ一般社會に於て氣をつけられる事柄であります。

「親鳥の歌うやうに、雛が囀る」と申しますが、一旦間違つた不正の練習を致しますと、これを矯正するには、持續的に、眞面目に練習しなければ、なかなか正しい言語を使へなくなるものであります。

育兒者の心得概略（承前）

宮本仲

以上の如く養育候時は、必ず其體に適し申すべく候も、其適否を確めんには、其兩便を毎日御檢し可被成候、此注意は啻に彼れの消化器並に榮養狀態を察知し得るのみならず、遂に彼の疾病有無までをも豫知する事が出來可申候、實に無言の嬰兒が、自己の違和を訴ふるの豫告なりと認められ候程の要事にて候間、假令乳母なり保姆なりに、御預け成され候場合たりとも、兩便丈けは可及的毎日其狀況を御聞き取り被成候樣、致度候、卽ち其要點は左之通に候

大便は人乳、牛乳孰れにも係はらず、消化の良否、通利の度數、便色便臭、及雜物（粘液若くは泡沫）等に候。

乳兒の便は能く消化して無形、全く「ねつとり」と軟かなるものが常態に候、俗間には之を玉子の「ふはふは」などに譬ひ候程に候、若し其中に粒々を混じ、或は硬く形を爲し居候時は、消化不良の前徵と認めて可然候、而して其色は黃色を常として若し綠色或は灰白色等なる時は病徵に候、牛乳の消化せざる時等には硬くして灰白色を呈するもの數々に候、然る際には便祕に傾き易く候、又其臭は少しく甘味あるが如きか、或は無臭なるが普通に候、然るに酸臭あるか特に惡臭腐敗樣なるかを聽く時は是れ疾病なり直に治療を受けられ度候、且又粘液、若くは多量の瓦斯、泡沫等を混ずるも同じく病徵に候、便通は普通一日兩三回が適當に候、但し間々一回若くは四回までは未だ病と認めず、然れ共一晝夜全く不通、或は五回以上の通利ある時は、既に變態の初めと相考へ候方可然候、併し通利と消化と相比考して其常否を定むる方至當に候、兎に角然る場合には醫家と御相談が宜しからんと存候。

大便と同時に小便にも尤も注意を要し候、嬰兒は其健否を尿に由りて告げ知らせ候程にて候間、決して御粗略に思召され間敷候、原來乳兒の尿は大人に比

して餘程多量なるものにて一晝夜間平均十二三行以上なるを常と致し候、別して牛乳養育し際には尙ほ多きを認め申し候但し小兒成長するに從つて其度漸く減ずるを見るも其量は却て增すを常とす。

尿通の度多きは甚だ宜し、反之一日十二回以內に減ずる時は既に疾病の豫兆と御考へ可然候、例之消化不良若くは腸胃の加答兒、寒冒發熱等の際の如きは襁褓の濕ること少なし、併し度數時として減少するも、其量多くして、襁褓の著しく濕めりて數枚を浸し候時は敢て懸念にも及ぶまじと存候、即ち量は中々測り難く候故、むつきの濕めり工合にて其多少を推定致し候を常とし候、之に反して、度多きを認め候とも、其濕り甚だ少きは矢張量の少き證跡に候間、其際には一層御注意を綿密に被遊度候、概言すれば、襁褓が澤山に濕り候はゞ其多き程愈〻良徵にて候、即ち既に疾病に惱める小兒にても、小便增量するを見れば、漸次善徵快復を報ずるの豫言と認めて宜しき程にて候、兎に角乳兒の尿通が、一晝夜十回以內位に減却候時には、御素人眼にも何にも御認め無之とするも、必ず一應は醫家の診定を御求め被成候事適當と存候、又た成長したる小兒に於て其色澤等認め得らるゝならば、是にも御注意あり度候、沈澱物の有無等も同然に候。

右の如く養育し候上其方法適當し、全然無病に、且つ順當に成長せられ候や否やを知られ度候には、更に體重の秤量が肝要にて候、體重の日々週々に增加し往くは、即ち是れ健育の證據にて候、萬一にも日を重ね週を經候ても、體重增多せず、特に減少の傾きあるを御認めならば、外形上何の變態を認められざるも、必ず一應は醫家に御諮り相當の御處置必要と存候、玆に御參考までに發育表を御覽に供し候

體重平均發育每日
25
23
22
20
18
17
15
13
12
10
8
6

年月 生長	體重 每月末	體重增加 每月間
初生時	3.250	+750
第一ヶ月	4.000	+700
第二ヶ月	4.700	+650
第三ヶ月	5.350	+600
第四ヶ月	5.950	550
第五ヶ月	6.500	500
第六ヶ月	7.000	450
第七ヶ月	7.450	400
第八ヶ月	7.850	350
第九ヶ月	8.200	300
第十ヶ月	8.500	250
第十一ヶ月	8.750	2.00
第十二ヶ月	8.950	平均 9.000
滿二年	平均 21.000	乃至 13.000

即ち此表はゲルハルト先生の教に從つて尤も概略を示したるのみに御座候、尤も西洋にても、日本にても、初生時に在ては、胎内發育の良否に因つて、各兒其差等著しく有之しを視申候、即ち其發育十分善き生産兒は四千瓦内外もあり、之に反して其不足なるは、二千七八百瓦位に止まるもあり候、尤も男女に於て多少の差は有之候、男子は平均三千乃至三千二三百なるに對し、女子は二千八百乃至三千瓦位の秤量なりと諸家の報告に相視申候、從つて毎週、毎月、畢竟毎年の發育其標準を逐ひ、女子は男子より背丈け、體重共少々なりと御承知被下度候、私は未だ日本人に於て澤山に此秤量の經驗を持ち不申候故、西洋諸家の説を借りて、此發育表を申上候得共、然かも私の些少の經驗にては、西洋人より日本人の方、餘程發育量が少き樣に思はれ申候、乍去尚ほ是れに就て熟考候に、初生時の體重は甚だしく輕少とは思はれ申さず、然るに嘆かはしきは毎月毎年の發育量に、少々つゝの輕減を來し、滿一年の後には既に一千瓦餘程の差を生じ、尚ほ丁年以上、即ち一人前に生成する頃は、獨逸人の平均より約そ一萬瓦許も少く相成候樣に認められ申候、是れ人種の關係にも因り候事なれ共、衛生上一般の不行屆きも幾許か其因を爲し候かとも察せられ候、就ては皆樣方賢母の御注意が啻に御家庭のみならず日本國一

般の模範と相成り、從つて育兒思想は勿論、家事衞生の方法が廣く世間に行はれ遂に西洋人に立ち勝り候様に致し度と只管所祈候。

右の體重表は發育の適否を測知するの他、亦た疾病の有無をも豫知する事が出來可申候、即ち若し、小兒の大便に異常を認めず、機嫌にも變り無之とも、其發育すべき體重が增加せずして止まり居る時は、何か內部に疾病の潛み居ることならんかと御懸念可然候、發育增加すべきものが依然として進まざるは是れ畢竟減退を意味候次第に候故、是非とも一應は醫家の意見を御聽き被成候必要可有之候、往々潛在結核などの小兒に於て其例を視めし驚き畏れしを實見致候。

又右表は母乳即ち天然榮養兒の中等發育を標準としたるものにて候、牛乳等人工榮養兒に在つては、其發育是よりは普通不良なる所有之ものと認められ居候、故に甲乙秤量の差等自然相生じ候段は御推知願度候、特に初生兒の第一ヶ月間に於ては、尤も著明の差を生じ可申候、例之ば初生時二三日即ち誕生直後より、嬰兒の體重は若干減却候こと、生理上至當の結果なれ共、母乳兒は、其減量を第一週內外に既に恢復致し反之人工養料のみの兒は、早くも第二週、遲きは三週前後ならざれば、誕生時の量までに恢復致し難き程にて候が如くに候、加之ならず人工養料の小兒は、萬一病氣と爲りたる時も、天然養料兒よりは早く衰弱し、遲く恢復するといふ例證多々有之候、此等の點宜く秤量上に御參考下されべく候。

秤量增加せざる際、然かも兩便に異常を認めず、元氣も變りなしといふにも係らす御乞診の必要ありと申すは、決して〳〵御服藥と勸め申候意味にては無之、唯だ其減量は潛在の疾病等に關する故か、又は榮養法の不適當に因るものかを鑑識して御貰ひ被成相當の衞生法を御實行有之度き事を祈るのみの次第に候、原より嬰兒に必要ならざる藥劑別して賣藥等相與候習慣は惡しき事に候、世に云ふ胎毒下しなど

申すもの俗間に行はれ候様なれ共、右の如きは害ありて益なきことゝ存候、醫家の意見に從つて、榮養及一般攝生法御實施相成候はゞ、服藥なくとも大概は發育を恢復可致若し此攝生法にて未だ回復せざる場合には、尙ほ何か深く潛める害毒の存する無きやを考ふべく候故、再三醫家の診案を乞はれ服藥の必要もありとのことならば、其時こそ十分の醫藥を御與へ、治療の道を御盡し被遊度と御勸申すことにて候。

呉々も申上度は、人工養料は、天然養料に其效益の及ばざる事右に記し候通に候、然れば母乳は決して決して濫りに廢棄すべきものに非ず、然るを世間往々母氏自體の勝手から吾が乳を離し、人工養料に移す人あるを視申候、嘆かはしき出來事に候、甚しきは榮華を驕る心持ちにて、乳母を傭入れんと考へたる者を實見致候、驚嘆の至にて候、是等は豪奢の爲め、身儘の爲めに、愛兒を犧牲に供するの無慈悲を省みざる所業とほか難評候、是等は澤山有之べき例にはあらざれども、假令一人たりとも此心得違が我が日本人中に存し候ては、實以て長息を難禁候。就ては貴所様等教育なる基礎の上に立ちて大なる關係を支配致され候方々は、宜く一般の人々へ其折々と御勸告被下、小兒の健育法を誤らぬ様御指導被下度、是れ畢竟國家に對し大なる御爲めと可相成候。

さて第三條として住居の件に移り槪略を可申上候。住居なるものは、只管必要上のみよりいふ時は、風雪雨露を防禦し、乾濕寒暑を調節し、暴人猛獸等の侵害を防衞するのが其大眼目に候、乍併之を衞生上とか、敎育上とか、美觀裝飾などゝか細密に論じ來れば、中々面倒なる箇條も多々有之候、されど玆には衞生、育兒に關する要點のみ一寸可申上候、卽ち

居室は槪して夏涼しく冬暖く日光の善く射入し、空氣の能く代謝し易き等の處を選み申度候、殊に淸潔なるは尤も宜く候。

但し夏涼しくと申候ても、嬰兒の枕邊に隙き風を透

過せしむること宜しからず、且つ窓から窓と吹き通し候風の通路に嬰兒を臥させ置候は甚だ悪し、殊に西洋風の家屋に於て注意すべき事にて候、故に涼風は徐に牀邊に到達する様被成度、例之ば小形枕屏風等を以て、調節すること尤も妙と存候、吹透しの風路に在ては、大人すらも尚ほ感冒し易きものにて候間、可成片方口より柔かに空氣を入れ、別して烈風時などには、一室を隔てゝ間達に、且つ交代的に換氣を行ふが尤も宜しと存候。

又た冬暖きを貴び候と申ても、餘り窓戸を密閉し空氣の新陳代謝を妨げ候様にては却て宜しからず、空氣の不潔は小兒の健育を害し可申候、然れば時々窓戸を開いて、空氣交換を行ふこと肝要に候、併し外界の空氣急劇に吹き入候ては悪き故、矢張前に申候様に先づ次の一室に十分なる換氣法を行へ置、其清潔なる空氣を更に居室に導き、間達を以て、新陳代謝せしむる方溫和にて至妙と存候。

換氣法は洋風、若くは日本造り、孰れを問はず必要に候、但し房室の構造如何を參照して、毎日一兩回の實行を要し候、特に寢室に於て然りと存候、成可は入寢前に於て一度空氣の代謝候様御取計可然候。

夜間は普通窓戸を閉ぢ置くものなれば、和洋の建築如何に係はらず、概して室内の空氣流通甚だ悪しく可相成候、特に燈火として「ランプ」、瓦斯、蠟燭等を用ふれば、一層空氣を不潔に致し可申候得ば、臥房には可及的有明燈など御用ひ無き様致し度候、世間往々嬰孩保育中有明燈を缺けば、甚だ不便也と感ぜらる方多からん、若し然る時は次室に置かれ候も亦た不得止候、乍去蓐牀の傍に手燭を用意し置き、其都度〳〵に點火用を便せられ候様に被成なば、尚ほ安全と存候、(近來は電燈なる便益物出來何よりの幸福に候其の有之候土地にては是のみ御用への方安全に存候)。

室内の溫度は夏涼く冬溫きを要すること勿論なれども、過度なる溫暖を貪り、空氣の腐敗を省みざるが如き悪弊に陥らぬ様御注意肝要に候、即ち嚴寒時に

在ても、居室は大約華氏寒煖計六十度内外の温度に保持され候を佳適と致候、世間往々煖房具として鐵製の置き「ストーブ」など御用へ候て、炭類を焚かれ候方ありと認め申候、是等は一利一害と可申ことに候、假令煙突装置を設けらるゝとも、しかも、室内空氣の不潔と、過度の乾燥とは自然免れ難し、即ち不得止の結果にて甚だ嫌忌する所にて候、併し全然西洋式家屋にて候はゞ、獨逸流の磁製煖爐御用いが最良と存候、復た英、佛流の壁に装置されたる分我邦にては行はれ居申候、御地の家屋別して御住居は如何相成居候哉、普通一般は炬燵火鉢等にて煖房の目的を達し居ること、御互の郷里と同様也と被察候、若し火鉢等被用候はゞ、其室内にて直に炭を繼がれぬ様可被成候、炭を直に繼ぐ時は、豫て炭中に含み居候、惡瓦斯、惡臭蒸氣等發散して、一層空氣を不潔に陥らしめ易く候故、必ず一度次室にて紅熾し、全然惡氣惡臭を放散せしめたる後之を繼ぎ火と爲さる様御手順可然と存候、然候はゞ幾分か炭火の害を減少可致候。（近年は瓦斯火「置ストーブ」流行致し候様なり是れは「ランプ」を用ゆるよりは多少宜しき様なれ共同じく新鮮の空氣を燃燒腐敗せしむるものに候然れば換氣法の御注意必要と相成候願くは煙突を設けて燃へたる空氣は室外に逐ひ遣り申し度候）日本風の室内にて、終日平等の温度を保有すべく企圖するは困難事に候故に、適當の室温上に劇變を來たさゞる様注意被成候ならば、既に宜しと申候より他無之候。而して小兒の體に對して尤も良きは「湯タンポ」の應用に候、西洋にては嚴寒時、汽車室に大「湯タンポ」二三個を入れ置候が、中々温かきものにて候、（當今日本にても有之申候）小生未だ實試不仕候得共、保育室（我邦の小室には）にも大「湯タンポ」を装置して、衛生的便益多からんと想察致候、近頃小生大瓶の中に深く火を埋め之を室の一隅に置き候得しが中々温かく候得し、御參考被下度候、餘談冗贅に失し候間略し申候。

御小兒方に對しては、些と六ヶ敷き注文なれ共室内と戸外と、寒暖の差異格別多き時は、其出入を急劇に成されぬ様望み申度候、別して同一著衣にて外套も用ひず、一頓に外出され候は往々寒冒し易し、總

て溫度の急變は身體に害ある事にて候、併し日本にては私共初め室の內外に應じて、著服の調節如何を省みるの習風無之候もの普通の如くに候可相成は羽織の着脫にて、寒溫を調節すること、洋服の外套の如くならしめたらば佳良と被存候、別して暖處より俄かに寒濕の外氣中に出遊するは僂麻質斯等に侵され易きの害あり好ましからず、併し古俗に子供は風の兒と申す諺すら有之候通り、全體に子供は屋外出遊を樂むもの故に、我邦にては從來小兒自らは勿論、親たる人も室の內外寒溫の劇變を顧慮せず忽ち入り、忽ち出で、或は寒、或は溫、更に害あるを知らざるが傾向と相成居候、加之此溫度變化に逢ふて、却て皮膚を鍛錬し、寒冒等に侵され難き强壯を結果するものと信ずるに至る、然り其例證は實際多く覩る所に候、然れで此劇變更に無害乎の疑問も生ずべく候、併しそは一害一利皆是れ程度問題といふの外無之候、實に自然力の養成は、最も必要の件なれども、餘り急劇過度なるに於ては、遂に障碍を結果可致候、殊に生來薄弱なる小兒若くは誕生前後位の嬰孩にして、既に成長したる强壯兒童の如く、寒溫劇變を省みず、出遊等不注意に看過する時は、忽ち寒冒性の諸疾患に侵さるゝの害あるべし、殊に其習慣は漸を以て進むを要し候、一頓に之を實行せんとするは甚だ危險に候、概言すれば總て兒童の體質に顧慮して適當の法を取るを上策と致し候。

臥牀は適當の溫度を保つこと必要なれども、過度に溫包することは、脫汗等の習癖に傾き、却て寒冒等に罹り易しとす、若し嚴寒時等にて「湯タンポ」など用ふるとするも、遠くより徐に溫暖を與ふる樣に致す方可然候、幼兒は全體溫まり易く、冷へ易きもの故衾衣を調節する點に於て大に注意を要すべく候。

小兒は適當の臥牀中に在ては能く安眠するものにて、晝夜合して十二時以上十五六時間も睡るものなり、決して此眠りを妨げぬ樣致し度候、殊に初生時に於て然と致候、西洋にては能く睡る兒は能く育つと申す諺有之程に候、小兒に乳房を含ませつゝ寢せ

著け候習慣往々見る所に候へ共、是れは全く禁止致度ものに候、口内の疾患を發し易く候。

乳兒を抱き寢する事は普通古來の風習と相成居、之に依りて兒體の溫暖を保維し、能く成長を助くるかの如く思考し居る人多き樣に候得ども、此は甚だ然るべからず候故、遂には必ず獨寢の習慣に改正致させ度き所に候、同衾すれば雙方孰れかの動搖に因りて、熟睡を妨害せられ、從つて兒啼き母覺め、漸く不時哺乳の弊害に陷り、終には乳房を含まざれば徹宵安眠を得ざるまでに立至り可申候、如斯は小兒の胃腸を害し、口内の疾病を喚起し、或は飲食不常の惡弊を釀し、且又所謂脂肪肥滿なる弛緩性を呈し、外來刺戟に對する抵抗力の減少にまで傾くこと有之候又た母氏の側より申候ても、安眠を妨げられ寒冒し易く候など、細かに論ずれば尚ほ數多の弊有之候故、是非獨衾に改めさせ度事に候、御參考置被成度候、尚は一つ尤も恐るべき事あり候故書加へ候は、抱き寢の際母體の不注意より乳兒を壓殺することに候、是れは西洋にても、日本にても往々聞きし所に候、實に悲慘の極に候、壓し潰すと申候ても、潰ぶれ候には非ず、乳房を以て口と鼻とを閉塞し、兒の呼吸を止め、兒は之を去る能はずして、遂窒息死に陷るものにて候、是れ抱寢の著大なる弊害に御座候。

小兒には日々行浴せしむるを善しとす、而して初生若くは乳兒に於ては、晝十一時乃至一時頃の間の如く、空氣溫まりて其度平等なる時に於て浴する方宜し、三時過殊に夕刻の如き、空氣漸々冷却に傾く頃には見合せられ度候、寧ろ稍々成長したる遊歩する小兒に在つては、夜即ち入寢前に於てする方適當にて候、而して浴後抱き歩き、驅け歩きなどして所謂湯冷せぬこと肝要に候、兎角浴後には寒冒し易きものに候、即ち皮膚弛緩せる處に冷氣を感ずる爲めに御座候、故に浴後は能々乾燥したる「タオル」の類を以て十分に濕氣を拭去り、直に入蓐せしむるが安全にて候、入浴の湯は大概華氏百度內外の溫を限る方宜し、初生兒に在ては、殊に高溫度に慣れしむ可ら

す、但し薄弱なる小兒には、場合に依り尙ほ高溫を取ること有之候、行浴は普通一日一回而して其時間は乳兒は約五乃至七分迄　兒は其以上十分間位迄を度とす、食鹽浴、又は潮水浴など害無きのみならず、大に有益に候、但し濕疹等皮膚病ある際には聊か顧慮を要す。

小兒の衣食住竝に之に附隨したる件は、大約右にて御話も盡きたりと致候、餘は可然御斟酌被下、且つ必要の點は御再問被下度候、次に遊戲竝に雜件を左に少々可申上樣卽ち

○○遊戲竝に玩具○○　是れは細事の如き樣なれども、其實決して細事に無之、一は衞生上に、一は敎育上に甚大なる關係を有する所に候、抑も小兒の遊戲は可成活潑なる方宜し、然かも危險なる方法は悉く禁忌すべく候、室內には邪魔物と爲るべき道具等を避けて、自在なる馳驅に便し戶外には特更庭前の敷石等無之可成廣く、且つ日方り善き淸潔なる場處を選むべし、而して男女の別無く、氣候適當なる頃には、可及的戶外運動を營ましむる方宜し此は身神發達の上に大利益を將來可致候。

小兒の戶外遊戲は、早朝若くは宵時に於てするは好ましからず、大凡日高く登りて、空氣既に暖りたる時より、日既に西に傾かんとして漸く冷氣を感ずる迄の間に於て、十分運動せしむるを適當とす。但し盛夏の頃には多少斟酌し、眞晝中若くは、日光直射の場處等に出づるを嫌ひ申候、所謂日射病等を恐れ申候故なり、其他稠人群集の場等は公園などの他好ましく無之候。

玩具は敎育上に就ても、大に注意すべきものなれ共、此義に就ては小生よりは寧ろ貴姉の御詳悉多き所なれば所謂對釋迦說法に他ならずと存じ相略し申候、併し大凡玩具を選み候には、彩色藥に往々毒物有之候間可成無色のもの宜しく候、西洋にては色素取締法嚴重に候故、稍々安心に候、日本にても必ず然樣可相成候、又た切先き尖りたるもの、鋭利緣なるもの、例之ば硝子製「ブリキ」製の品の如き危險の恐

あるは豫め避くる方可然候、概言すれば玩具は總て樂み易く厭き難く、而して損し難く若し破れ候とも危險の恐れ無きもの且つ其尤も注意すべきは、高尚にして智育上に利益ありと認むる品を選むべく候、但し高價の良品をのみ貴ぶに非ず、價廉なりとも大に稱賛すべきもの澤山可有之候、濫りに多數を集め、上等品を購ふ如きは自然驕奢の心を增長せしむるの傾きと爲る、年漸く長じて幼稚園に入る頃には又た相當の品物可有之是等適宜に御考所祈候。

小兒は全體神經銳敏なれども、尙ほ甚だ懦弱なるものに候得者之を驚怖せしめず、恐嚇すべからず、萬一惡戯と認むる時も徐に話し聞かせて叱咤せぬ方宜し、行義を敎ふるにも急劇且つ過度なるは惡しなど申事に候、併し是等は皆な既に貴姉御詳知の次第、小生却て門外漢と自信仕候、但し恐嚇、驚怖等は單に敎育上の關係のみならず、精神的疾患を原因することあれば衞生上よりも大に禁ずべき所に御座候一寸筆の序に一例申上候、或る保姆其令兒を躾けんさて恐ろしき譬話を度々引用して戒めたるに、其令兒遂に精神の恐怖的興奮狀態に傾き數月困難を感じたる事を實見仕候得き、或は晝間甚敷驚怖したる嬰兒が同夜數々魘夢に襲はれて安眠を得難かりし例證は決して稀ならず候。

小兒は習ひ且つ覺えんと欲する思想の盛なるものなれば、野卑なる玩具、書物、譚話、居動等總て見聞せしめざる樣注意すべし、特に居室內裝飾諸の如きは其品其色其形並に配置等まで可成高尚なる方宜しく致候、右の外尙申上度件有之候得共餘り冗贅に涉り候間相略し、後便に讓り申候但し衞生上尙ほ三四の雜件も必要と存じ概略追加可仕候。

（以下次號）

家庭衞生

食事の行儀

何れの國にも昔から食事の行儀作法と云ふものがありまして、これが諸禮式の中心になつて居ります。その主とする所は敬意を失はぬやうに、體裁よく且つ便宜に食事をすることでありまして、小笠原流と云ふやうな大變六ケしい法式が出來て居ります、西洋に於きましても同樣でありまして、これは社交上誠に必要なことで御座いますが、衛生と云ふことは從來の儀式の上には餘り顧慮されて居らぬやうであります。元より自然に衛生の法則に適ふて居る所もありまするけれども、それは寧ろ偶然の事であつて、元來衛生の學問の幼稚な時代に定つた禮式でありますから止むを得ぬ次第であります。野人もとより禮に習れず、貴婦人方に對して禮式の講釋では御座いませぬが、衛生上から、食事の行儀に對する極普通の原則とも云ふべきことを簡單に申上げて見ますならば次の如く申すことが出來ませうか。

「良く咀嚼されたるは、半消化せられたるなり」とは西洋の諺になつて居りますが、これは消化生理上の事實で御座います。食物を取ると云ふのは、身體の榮養の爲でありまするから、榮養には是非食物の消化と云ふことが前立たなければなりませぬ。如何に滋養に富で居るものでも、如何に味の美いものでも、消化されなければ身體の榮養とはならぬのであります。それで食物を善く消化して身體の榮養になるやうにすると云ふ點から申しますと、料理と云ふことも既に消化作用の始りで、人工的に消化器の外で消化せしめるのであります、況や口の内に於て物を細かに嚙碎き、消化液たる唾液を混じながら、物を味ひ、胃に送るに適當なる軟き食塊とすることは、立派な消化作用の一部分で御座います。故に齒が惡るいか若しくは口に創があり或は痛があるやうな場合には、必ず胃が惡くなります。これはつまり十分咀嚼しない爲である。又口や食道より食物が通らない場合或は通してはならぬやうな場合に、外科の方では、胃に孔を穿けて、其處から榮養物を送ることが御座いますが、少し長くなりますと、如何に

適當な食物を胃に入れましても、消化が惡くなり十分に榮養が取れないのであります。これを以て見ましても、口の中に於ける消化作用、又味と云ふことが如何に必要なものであるかゞ分かるので御座います。故に食事に際して最も大切な要求は、一口にこれを申せば、寧ろ質素に、適度に、清潔に且つ行儀よく、緩徐にと云ふことであります。

食事の行儀としては、正しく坐ることも必要でありませう。尤も嚴しく衞生上から申しますならば我國の作法の如く膝を折曲げて、其上に身體全部の重みを掛けて長い間坐ると云ふことは、如何に考へても宜しい方法と云ふことは出來ませぬ、況や塵埃の蓄積を免れぬ疊の上に會席膳のやうな平たいものをべたりと置いて、身體を甚しく前に屈して食事をするやうな作法は、相成るべくは早速廢止したいものでありますが、當分直ちに改良することは六ケしい事情もありませうから、これは漸次衞生思想の普及と共に改まることで御座いませう。併し食事前に石鹸を用ひて手を洗ふことは是非食事の行儀の一つと致し度いものであります。尤も我國の人は西洋人の如く麵麭を手掴にて食するやうなことは稀でありますけれども、一々食器を手に持ちますから、矢張手の清潔と云ふことは極めて必要のことゝ思はれます。英國人は食事前に手を洗ふ習慣があると聞きましたが、これは誠に善い習慣と存じます。御承知の通り手には隨分不潔なものが附著して居ります、少し無性に致しますと、爪の間に眞黑な汚物が溜り、その内には無數の黴菌が湧いて居ります、のみならず赤痢、虎列刺、窒扶斯等の如き恐るべき傳染病の病原菌も手に依て口の内に運ばれるのでありますから、ます／＼食事前の手の清潔法は勵行して、一つの習慣と致し度いものであります。又熱い物、冷たい物を食することゝ急食すること等は宜しくないことでありますが、これも我國の人々は得意のやうに思はれます。汁の如きは勿論、其他の煮物でも、非常に熱い物を食べる習慣があります、さうかと思ふ

と今度は氷を削つてその儘食べる、此等は齒の爲にも、胃腸の爲にも一般に消化の爲に宜しくないことであります、且つ表徳口をして熱い物を吸ふたり、胸を擦つて氷を呑んだりすることは、普通の行儀作法から云ふても無作法極まることであらうと思ひます。次に早飯早○は時間の不規律な昔の職人や軍人などには必要な事でもありませうが、今日時間の規則正しく守らるゝ世の中には、決して左樣な習慣をつける必要はないのであります。可成食事は緩くり致し度いものであります。

次に食膳に就く時には努めて快濶な、愉快な心持を以て向ひ度いものであります。勿論無作法になつては困りますけれども、狭い食膳の外に眼を向けてはならぬとか、全然話をしてはならぬとか、盲や啞のやうな窮屈な眞似をしなければならぬ行儀作法は、樂しくありませぬ。自分で愉快に心を持たうと努めれば、隨分不平の時でも笑顏は出來るもので、强ひて笑顏をすれば、それだけ不平は減ずるものであります。併し食事の際は可成その周圍の樂しいことが必要でありまして、これは小さな家庭では決して困難な事ではありませぬ。斯樣な種々の點から見ましても銘々膳は不都合であります。可成一つの大きな食卓を家族で圍むで、折々は愉快な客人を混へて樂しく食事を致し度いものであります。食卓で御座いますと、眞白な布を掛け、盆栽或は美しい花を盛つた壺などを置き、眞白な布の上であれば、自然食器も清潔にしなければなりませぬから、衛生上にも善し、樂しくもあり、自ら食慾を增すことゝ存じます、此等は別に大した面倒も要せず、少しも贅澤な事では御座りませぬ。斯樣に僅か心を用ひますならば、我邦の食事法には隨分改良すべき點があるだらうと思ひますが、兎に角衛生的に改良することを努め度いと思ひます。斯くして始めて食事は樂しいものになり、愉快なる家庭生活の中心點となるのであります。

脫臼骨折時の注意

婦人は一般に怪我をすることは男子に比して遙に稀であるが、小兒は隨分手足の骨を挫くことが多い、即ち脫臼を起す、手足の關節が脫れる、或は骨が折れる。此時に所謂骨繼ぎ醫者と稱せられる柔術の老先生や柔療治の先生の所に連れて參りますと、大抵は引張つたり柔むだりして整復致します、解剖や生理は知りませぬでも。經驗と手加減で上手にやりますが、何うかすると大變な過を來すことがあります。脫臼、即ち骨の節が脫れたものは、少々暴力を加へて引張つても、揉むでも大した害は來しません、只徒らに腫らして整復し難くする位の事でありますけれども、往々脫臼か骨折か、或は兩者混合して居るか其邊の診斷のつかぬ事があります、假令略ぼ鑑別がついた所で、元來醫學の智識が無いのでありますから、隨分無法な療治を致すものであります。現に私も數回左樣な例を見て居ります。一回の如きは、膝關節部の骨折でありましたが、それを頻りに揉み立てまして、痛いのも療治であるからと云ふて、患者も我慢して一月程通ひました所が、それなり膝は曲らぬやうに固まつて仕舞つたのであります。斯樣な事が屢々ありますから、手足をくぢいた時にも、矢張確かな醫師の診察治療を受けることが必要であります。

脫臼、即ち骨の節の繼目の所が脫れました場合には、顎の骨でも、肘や膝の骨でも乃至は鎖骨、肩胛、大腿等の脫臼であつても、脫れて手足が不自然の位置になつた、そのまゝそつとして醫師の所に行くのが最も善い、へたにいぢると失敗するのであります。可成早い程整復し易いのでありますから、自然に治るかも知れぬなどゝ云ふて二日も三日も放置して置かぬやうにしなければなりませぬ。小兒は往々そのまゝ固まつて不具に成ることがあります。成人と雖も、第一診斷が困難になり、治療も六ケしくなるのであります。

脫臼の方はそれでも比較的危險が少ない、脫臼そのものゝ外、生命に危險を來すやうなことは甚だ稀でありますけれども、骨折、卽ち骨が折碎けると云ふことになりますと、なか／＼危險が多くなつて參ります。それも單に骨が皮膚や肉の內で折て居る場合は未だ宜しう御座いますけれども、これが一度皮膚を破ることになりまするど。外科の方で申します所の所謂複雜骨折と云ふて甚だ危險のものに變ずるのであります。この皮膚を破ると破らぬと、ほんの皮一重がその豫後の上に大關係を及ぼして來るのであります。まれ故に骨折が起つた疑のある場合には、シンバリ棒でも天秤棒乃至木の枝でも何でも宜しう御座いますから、綿なり、布なり、適當に卷いて、これを其の折れたと思ふ肢脚の外側に當て、例へば上膊骨が折れた時には、肩から前膊に掛けて此の副木を當てゝ紮り、決して動いて折れた骨の尖が皮膚を突破らぬやうにして運搬することは最も必要のことであります。特に骨折の危險なのは老人でありまして、元來老人の骨は脆くなつて居りますから、折れ易く、又接合し難い、其他大腿骨の如き大きな骨が折れます時には屢々生命に係るやうな餘病を發して忽ち死亡することがありますから、老人の骨折や脫臼には殊に注意致さねばなりませぬ。

乳牛嫌の人に牛乳を與ふる法

病氣の時には、是非牛乳を主とし飲ませなければならぬ場合があります。所が牛乳嫌の人がある、殊に老人などには多い、これは單に四足の乳などは穢はしいと云ふと飲まぬ人もありますが、實際嫌で、強て飲ませますと、嘔吐する人もあり、却て便秘を來し或は下痢し、榮養を害するやうな人も御座います。斯う云ふ人には、先づ極少量づゝ藥のやうにして與へ、段々量を增して與へます。又三分の一程水を加へて煮沸して與へます。斯樣な人には砂糖を加へて

はます〳〵飲めぬものである。その時には少量の結晶重曹或は煆性「マグ子シア」を加へて試みます。又石灰水を四分の一程和して與へますと大抵の人は飲み得るものでありますが、それでも尚ほ嫌ふ人には咖啡或は柯々亞を加へ、又は葛、重湯、麥の煮汁、沙汁布煎、或は卵白及び少量の酒類等をその好に從つて加へますと幾らか飲めぬことはないものであります。それから段々量を增し、漸次混物を少なくし、遂に純粋の牛乳を多量に用うるやうに致すのであります。



雜報

○第五回兒童博覽會

同會は來る四月十五日より五月三十一日迄、三越吳服店内に於て開かるゝことに決したるが、その規定は左の如し。

第五回兒童博覽會規定

一、第五回兒童博覽會は來る四月十五日より五月三十一日まで三越吳服店特設陳列場に於て之を開く

一、第五回兒童博覽會に陳列すべき物品は左の各種とす

（一）人形、玩具、恩物等
（二）圖書、繪畫、寫眞其他印刷物
（三）和洋服及び附屬品一切
（四）帽子、靴、下駄、草履及び附屬品
（五）小間物、化粧品及び造化類
（六）洋傘、袋物其他携帶品一切
（七）學校用品及び文房具類
（八）理化、博物、地理、歷史等の標本
（九）建物、機械、船舶、武器等の模型又は標本
（十）保育用及び教育用機械、器具

一本會に出品御希望の方は來る三月十五日迄に三越吳服店内第五回兒童博覽會出品係へ御申込あるべし

一出品御申込の際には別紙出品明細書に品名員數作所姓名等洩れなく御記入の上出品係へ御差出し相成たき事

一出品は三月三十日限り相違なく出品係へ御送附の事

一出品者の製作にあらざる物品には製作者の住所姓名を附記せられたき事

一賣品にあらざる出品には非賣品と記入せられたき事

一出品は出品係に於て鑑別の上　本會の趣旨に適合せざるもの容積過大なるもの　若くは陳列保存に差支あるものと認むると

きは採用せざることあるべし

一出品の陳列及び之れに關する費用は本會に於て負擔する事、但し運賃其他運搬に關する費用は出品者の自辨とす

一出品多數にして同時に陳列し能はざるときは本會は隨時陳列品の撤去若くは交換を行ふことあるべし

一出品は非賣品の外即賣するものに付出品係より補充又は代品の出品を請求するときは直ちに之れに應じ得るやう準備せらたれき事

一出品は本會審査委員に於て審査の上優等品に對しては賞品又は賞狀を贈呈すべし但し審査を希望せられざるものは此限にあらず

○文部省の「トラホーム」調査

文部省にては、「トラホーム」病統計材料として、豫防調査必要の旨を以て、左の事項に就き地方廳へ回答方を通牒したりと云ふ。

一、幼稚園各小學校同程度の生徒に關し「トラホーム」檢査統計表

二、同上各小學校に於ける「トラホーム」病患者家庭に於ける戶主の職業別

三、同上患者に對し治療を爲し居らば其狀況竝に治療成績

四、敎育會又は其他の團體に於て今日迄「トラホーム」豫防に關し施設したることあらば其狀況竝に調査書、注意書等あらば謄本、爾後計畫中に關するものあらば其の施設の概況

五、明治四十五年、同四十四年徵兵適齡者「トラホーム」病患者の主なる職業統計表

廣告

○私立大日本婦人衛生會總會

同總會は三月一日午後一時半より神田區和泉町なる三井慈善病院內講堂に於て開催せられたり、午後一時總裁東伏見宮妃殿下には、御馬車に召させられ、宮岡御用掛を從へ御來場あり、副會長濱尾男爵夫人を始め役員一同竝に三井男爵夫婦竝に一族の人々及び慈善病院長以下玄關の左右に御迎へ申上げ、副會長の御先導にて階上に成らせらる、階上には會長鍋島侯爵夫人御迎申上げ直ちに貴賓室に入らせらる。暫ありて本會役員及び三井男爵家の人々竝びに慈善病院長其他の重立たる人々に拜謁を賜はり、それより本日の會場に充てたる講堂に御臨場、會衆一同最敬禮の間に御著座あり、是に於て本會書記莊司秋次郎氏開會を宣し、會場及び講師の變更されたる理由、懇親會を延期せる旨を告げ、庶務會計

の報告は婦人衛生雜誌上に讓り、役員改選投票開披の結果、本會々長、副會長、幹事及び評議員總て從前の通り決定されたる事を報じ、次で會長鍋島侯爵夫人は、本日　總裁宮妃殿下の御臺臨を得て、この總會を開くことは本會の光榮たる旨を述べ、尙ほ三井男爵家の好意を謝し、更に殿下御總裁の下に益々本會の隆盛を計らむことを希望して挨拶とせられたり。それより岡田醫學博士は、恭しく殿下の前に一禮の上登壇、「結核の豫防」と題し、結核病の本體、傳染經路を略說し、本邦の結核病蔓延の甚だ憂慮すべきこと竝にこれが豫防法の大意を述べこれが豫防には、婦人の助力に俟つ所多く、就中本會の如く有益且つ有力なる婦人會の援助を要すること大なれば、特に此の機會に臨みてこの希望を訴ふと結ばれたり。これにて式を閉ぢ、殿下の御退場を待て、同じ場所にて三百の會衆に茶菓を饗し、殿下には再び貴賓室に於て暫時御休憩の後、田代院長の御案內にて親しく院內を御巡覽あらせられ、それより會員一同は直に東京衛生試驗所に向ひ、こゝに再び殿下の御臨場を仰ぎ、殿下には所長室に御休憩の間、田原所長、石津博士、內務省より特に出張せられたる小橋衛生局長等に拜謁を賜ひ、それより所長の御先導にて、所內の各試驗室に於て試驗實況を御臺覽あり、參考館に移りて階上階下の各室に於て一々田原所長の解說に依りいと御熱心に隈なく御熟覽あらせられたるは、所長始め役員一同の恐懼し且つ恐悅に堪ざる所なりき。斯くて御休憩の御暇もなく御機嫌いと麗はしく御歸邸あらせられたり、會員も殿下御巡覽の後より一同引續き所內全部の案內を受け、全く散會せるは午後四時過なりき。

因に當日は三井家の好意は本より慈善病院職員特に田中文藏氏竝に看護婦諸氏の周到至らざるなき懇篤の斡旋に對しては本會役員始め會員一同の厚く感謝する所なりとす。

尙ほ衛生試驗所長、石津藥學博士及び村上氏等が殆ど終日　殿下御臺臨の爲とはいへ又本會の爲に非常

の好意を以て其勞を執られたるは、本會の記して以て永く德とする所なり。

△總會寄附

○金貳拾五圓也

右　總裁宮妃殿下より御寄附

○金拾圓也

右　會長鍋島侯爵夫人より寄附

△大日本婦人衞生會收支決算報告書

（自明治四十五年三月至大正二年二月）

收入

一金五千參百九拾四圓八錢八厘

内譯

金參千七十五圓八拾八錢參厘	前年度ヨリ越高
金貳千九圓五拾五錢五厘	會費
金百八拾圓九拾錢	寄附及懇親會費廣告料
金百拾六圓八錢	預ケ金利子
金壹圓六拾七錢	雜收入
金拾圓	振替貯金基本金減額戻入

支出

一金貳千百四拾五圓六拾參錢

内譯

金五百參拾七圓六拾參錢	報酬及雜給
金參拾八錢	備品費
金九百七拾四圓八拾壹錢	圖書及印刷費
金四圓九拾七錢	筆紙墨文具
金四圓參拾七錢	消耗品
金九拾壹圓拾參錢五厘	通信運搬費
金百五拾七圓七拾九錢五厘	集會費
金七拾四圓五拾貳錢	雜費
金參百圓	借家料

一金參千貳百四拾八圓四拾五錢八厘

收支差引殘

内譯

金貳千九百圓	三井銀行預金
金五拾參圓	東京貯蓄銀行京橋支店同上
金五拾圓七拾八錢五厘	振替貯金
金五拾圓	借家敷金
金百九拾四圓六拾七錢參厘	手元有高

以上

○本會入會者

○事務所申込

●牛込區仲ノ町十八　通常會員　本莊嵩枝子

○田村きよ子紹介

●本郷區丸山新町　通常會員　近藤憲子

○轉居

●臺灣打狗作業所出張所官舍へ　宮本定子

●牛込區市ケ谷山伏町二十二へ　服部仲子

◎募集人員第壹學年壹百名○入學資格者高等女學卒業生

○願書呈出期限三月廿五日限り

東京女子醫學專門學校生徒募集

東京市牛込區市ケ谷河田町六番地　電話番町貳千拾九番

詳細ノ規則ハ郵券參錢ヲ要ス

私立大日本婦人衛生會發行

醫學士渡邊房吉著

家庭醫學　活ける家

洋裝全一冊

定價七拾錢

大賣捌

東京市本郷區春木町三丁目卅二番地　南江堂支店

東京市神田區表神保町三番地　東京堂書店

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 男爵夫人 濱尾作子

幹事 鳩山春子　同 羽田三緒子

同 岡田德子　同 高木鉎子

同 山本多穗子　同 三浦敎子

同 松平芳子

評議員（いろは順）

石川貞子　同 岩下ゆか子

同 濱田捨子　同 長谷川仲子

同 服部繁子　同 仁禮壽賀子

同 西外子　同 土肥多越子

同 緒方悅子　同 岡山とし子

同 小川孝子　同 男爵夫人 加藤鈴子

同 片山龜子　同 吉武輝枝子

同 丹波貞子　同 高橋孝子

同 田村きよ子　同 鶴原誠子

同 男爵夫人 南部殿子　同 中濱芳子

同 山口貞子　同 子爵夫人 松井正子

同 古市幸子　同 伯爵夫人 阿部篤子

同 岸澄子　同 菊池粲子

同 三宅藤子　同 宮本樂子

同 宮下咲子　同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊 定價金貳拾錢 郵稅壹錢

三冊（三ヶ月分） 前金郵稅共 金四拾五錢

十二冊（一ヶ年分） 前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字

壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢

○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓

○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正二年三月十七日印刷
大正二年三月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區根津西須賀町九番地 非司秋次郎

印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 今井甚太郎

印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所

東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

婦人衞生雜誌第二百八十號（大正二年一月）明治四十三年十二月一日（每月一回）